

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教養 科目 目 群	一般 教養 科目	社会 科学	しまね地域共生学入門	本授業では、学生たちの学びのフィールドとなる島根県とそれがかかえる課題について理解を深めるとともに、地域課題の解決のためには、さまざまな主体が協力しつつ地域をつくっていくことが必要であることについて認識を深める。具体的には、島根県の地域的特徴について考察するとともに、島根県がかかえる地域課題について、ゲストスピーカーを招き、地域課題とそれらを解決しようとする取組について臨場感をもって伝えていく。本授業の履修を通して、学生は島根県の地域課題について普遍性と特殊性の両面において理解することができる。
			日本の政治	本授業では、政治学の中でも政治学史や政治思想以外の現代の日本における政治全般について政治制度や政治過程を制度とその制度の下で行動するアクターを中心に学修する。本授業の履修を通して、日本国内の政治体制、政権、政党政治、議会制度、内閣制度、官僚制、選挙制度、世論やメディア、利益団体などの政治制度やその動態としての政治過程はもとより、先進諸国家の制度や政治過程、さらにはそれらに関連する政治史についての比較理解ができる。
			国際社会と政治	本授業では、国際社会における政治の機能と役割について学ぶ。最新の国際ニュース映像や新聞記事などを講義資料として多用することで受講生の関心を高めつつ、時々刻々と変化していく国際政治の動向を注視することで、国際社会の諸課題・問題点を浮き彫りにする。それを踏まえて、その解決策をグループディスカッションやコメントペーパーのフィードバック、ワークショップ等を通じて多角的に探求していく。本授業の履修を通して、国際社会と政治に関する基本原理、概念、諸課題・問題点について自己の言葉で説明・分析することができるスキルを修得する。
			グローバル時代の平和と安全	本授業では、グローバル時代における平和と安全の問題について学ぶ。「グローバル」「平和」「安全」というキーワードを掘り下げていくことで、グローバル時代に生きる私たちがいかに「平和」「安全」な社会を構築していけるのかというテーマについて多角的に探究する。「グローバリズムの光と影」「平和な社会とは」「安全（安心）な社会とは」「誰のための安全保障なのか」「安全（安心）の確保のために」「持続可能な社会の構築に向けて」といった論点を設定し、最新のニュース映像や新聞記事などを講義資料として用い、グループディスカッションやコメントペーパーのフィードバック、ワークショップ等も取り入れながら、双方向的な授業を展開する。本授業の履修を通して、グローバル時代における平和と安全に関する基本原理、概念、諸課題・問題点について、自己の言葉で説明・分析することができる。
			グローバリゼーション論	本授業では、グローバリゼーションの進展・深化を、政治（国家）、経済（市場）、社会（市民）の相互関連性という観点から理解することを目的とする。授業では、初学者がグローバリゼーションの現象と動向を理解できるように、国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報の移動の具体的事例を取り上げる。同時に、地理的遠隔地で生じた越境現象が、世界諸地域の政治・経済・社会・文化や、人々の意思決定、行動に影響を与える様相も紹介する。また近年の動向として、新自由主義的なグローバル化推進派に対抗する反グローバル化運動の展開についても論じ、世界経済のアクターが国家や多国籍企業に加え、国際NGO、市民活動など多様化していることを学ぶ。本授業の履修を通して、グローバリゼーションの歴史的展開と現代的な実態に関する基礎的知識を身につけることができる。

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教養科目群	社会科学	経済学入門	<p>本授業では、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別される経済学について前半パートではミクロ経済学、後半パートではマクロ経済学について、基礎的な入門レベルの内容について学ぶ。授業は、オムニバス方式により実施し、「経済学の考え方は社会の諸課題に立ち向かううえで有用なものである」と関心を持ってもらえるよう工夫しながら解説を行う。本授業の履修を通して、基礎的な経済学の知識を修得するとともに経済学に基づく考察力を養うことができる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）                      (35 西藤 真一／8回)                      ミクロ経済学のパートでは、消費者や企業などの「経済主体」の行動を分析し、分析の際に考えるべき重要な視点を学ぶ。具体的には、①ミクロ経済学の出発点としての「希少性」について学んだうえで、②合理的な経済人の行動原理と消費行動、③利潤を最大化する企業の生産活動、④市場のメカニズムを順に学ぶ。                      (40 鈴木 遵也／7回)                      マクロ経済学のパートでは、まず①国内の生産活動において必要不可欠な要素や、生産活動によって生み出される財やサービスの購入部門について学ぶ。次に、②高度経済成長期からアベノミクスまでの日本経済の変遷についてマクロ経済学の視点から学んだうえで、最後に③マクロ経済を現実のデータから検討するうえで役立つ、寄与度や寄与率などの計算や数値の読みとり方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
		現代企業論	<p>本授業では、現代社会における企業の基本的な概念と役割について解説するとともに、企業に関する基礎的な知識の理解を深めるために、各回のテーマに即した事例を取り上げ、その事例に関して受講生と議論をしながら進めていく。本授業で取り上げる内容は、企業形態（企業の諸形態、株式会社の発展の歴史、公企業と公益企業など）と企業統治（会社機関と企業統治、コーポレートガバナンスなど）、企業と社会の関り（企業の社会貢献、社会的責任、環境経営など）などである。本授業の履修を通して、現代社会における企業の基本的な概念と役割について理解し、自己の言葉で企業と社会との関係について説明できる。</p>	
		法学入門	<p>本授業では、我が国の司法制度を概説する。その内容は、①制度の基盤としての「裁判所・法律家」の解説、及び②具体的な訴訟制度（民事訴訟、刑事訴訟、行政訴訟）の解説という2本の柱で構成される。本授業の履修を通して、司法制度の概要を理解し、自分の言葉で説明することができ、加えて、司法制度に関する基本的な問題について論理的に思考・表現することができる。</p>	
		社会学入門	<p>本授業では、社会学の基礎的な概念や理論を取り上げながら、さまざまな社会現象や社会的トピックについて考察することを通じて、社会学の基本的な考え方や視座を修得する。主に、行為や相互行為といったミクロな視点を重視し、家族や教育、社会規範、逸脱行為、権力など、私たちの日常生活に見出される社会的事実や社会現象を主たる考察の対象として解説を進めていく。本授業の履修を通して、自らの身の回りに存在する社会について社会的に分析する能力を身につける。</p>	
		ジェンダー論	<p>本授業では、性別役割分業や男らしさ・女らしさという典型化された性の特性は、歴史的、文化的、人為的に形成されたものであることを明らかにする。他方で少子高齢化、共働き社会の台頭という「構造変動」は人々の考え方、男女の行動様式、考え方の変化も生み出すことも考察する。共働きが増大する雇用構造が支配的になると、男性の家庭領域への参加も増大を余儀なくされ、仕事、家庭での男女の共同参画が進むと予想される。本授業の履修を通して、以下を理解することができる。①男女共同参画社会構築のための法制度の歩み。②職域における男女の雇用慣行。③国勢調査、労働諸統計を通じた、職域の女性の労働参加の状況。④父親の家事、育児参加研究及び生活時間統計(社会生活基本調査)を活用した家庭領域の分業の実態。⑤単なる座学ではなく諸統計を基にした簡単なデータの分析も交えた、性別役割分業の実態と変化。</p>	
	人文科学	哲学	<p>本授業では、人類の知的な営為である哲学について学ぶ。ここでとりあげる人間の思考の枠組みは、古代ギリシア哲学から始まり、神学を主とした中世ヨーロッパの思想、そして近現代思想にいたる西洋哲学史の流れである。人類が万物の根源を探るとき、最初に行われた方法は思索、思弁である。科学技術が高度に発展した現在でも、人間が様々な行為を行う出発点としての哲学は重要である。本授業の履修を通して、哲学という人間の思索の根本を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際関係学部 国際関係学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教養科目群 一般教養科目 人文科学	日本思想史入門	本授業では、日本思想の特徴である習合性、すなわち神道、仏教、儒教が複雑に入り混じって発達してきたこと、そして近代になって西洋思想との出会いによって独自に発達した明治啓蒙思想について、それぞれの歴史と特徴および現代につながる伝統について基礎から学ぶ。本授業の履修を通して、学生は日本思想の概要を知ることができるだけでなく、日本思想が東洋思想や西洋思想と比較してどのような個性を持っているのか、特に中国や韓国の思想との違いについて理解することができる。	
	日本文化論	本授業では、主として伝承によって継承されてきた有形無形の日本の民衆文化の特色について、西洋との比較の視点をまじえて学ぶ。具体的には食生活、住生活、旅、葬送・産育の儀礼、妖怪、小泉八雲の日本論などを取り上げ、それぞれのテーマから背景にある日本人の精神性の特徴について修得する。本授業の履修を通して、日本の民衆文化の特徴を比較文化的視点から理解できるとともに、古来の伝承を、現代の生活との関連性においてとらえるまなざしを身につける。	
	人文地理学	本授業では、地域政策や国際的な課題を学ぶために共通して基盤となるような人文地理学の基礎的な知識や考え方、方法について学ぶ。具体的には、地域のとらえ方、人間と自然環境とのかかわりに関する地理学的な見方、景観の見方、人間の経済活動の立地について考察する。また、地理学において必要な能力となる地図や地理情報システムの利用方法も身につける。本授業の履修を通して、学生はみずからが関心をもつ地域や世界を地理的に見ることができる。	
	歴史学概論	本授業では、「歴史を学ぶ」ということが持つ意味、目的・効用、事実と解釈の違い、史料の扱い、「歴史認識」という言葉の意味内容などを学ぶ。本授業の履修を通して、「歴史学」がどういう学問であるか、「歴史」を学ぶ際に注意すべき点は何であるかを理解し、自身の「歴史認識」を育むための基本的なスタンスを身につける。また自らが「史資料を集め、分析・解釈し、自らの議論を組み立てる」という歴史的アプローチを用いて研究をする際に取るべき方法・手順、気をつけるべき点を身につける。	
	西洋近代史	本授業では、近代から現代までの社会・文化の変遷をふり振り返りながら、歴史的観点から西洋の社会・文化について考察する。具体的には、近代イギリス・フランス・アメリカを中心とした社会・文化史の諸問題、とりわけ食文化をはじめとする生活文化の変遷について、古代から現代までの西洋の社会・文化史と、同時代のアジアの動向を念頭に入れながら、世界史的視野に立って考察する。その際、各時代、各地域の食文化・生活文化、東西食文化・経済の交流、コーヒー、紅茶、建築文化、服飾文化の推移とその社会的背景、民族・家族・社会階層、現代欧米の変容、人口問題と食糧問題、少子高齢化・格差社会と福祉等の諸問題を検討しながら、西洋近代史についての理解を深めていく。本授業の履修を通して、西洋近代史に関する基礎知識を身につけ、それを自分の言葉で説明でき、西洋近代史の諸問題について論理的・分析的に考察し説明することができる。	
	文学	本授業では、近現代の小説をテキストとし、初歩的な文学理論の学修を通じて小説技法に関する理解を深めるとともに、読みの実践を通じて文学作品が内包する歴史性、政治性、地域性といった多元性について学修する。実践性を重要視するために、受講生にはグループワークや発表の機会を多く与える。本授業の履修を通して、考え、傾聴し、発信する力を涵養することができる。	
	芸術学	本授業では、主にルネサンスから20世紀半ばまでの絵画作品と、近年の現代アート作品を具体的事例として挙げながら、人を惹きつけ社会に働きかける「芸術の力」について考えていく。歴史的な流れを踏まえて芸術に関する常識的な知識を確かなものとし、「地域に根ざしたアートプロジェクト」や「美術館の新たな試み」等の、現代における最先端のアートシーンにも目を向けて、社会の中での芸術の役割について考察する。本授業の履修を通して、芸術に関する基礎的な知識を修得し、主要な概念や歴史的経緯、社会との関係性等について、自己の言葉で説明できる。さらに、現代社会における芸術の意義について、論理的・分析的に思考して自らの考えをもち、文章等でそれを表現することができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教養科目群	人文科学	心理学概論	本授業では、心理学の諸分野の基本的な考え方を説明し、「心の理解」の重要性を認識し、「心の動き」、「心の健康」について理解を深めていく。諸分野というのは、具体的には、記憶のしくみ、対人関係、動機づけのメカニズム、思考・言葉の発達、心理アセスメント、心理学支援などである。本授業の履修を通して、受講生が人間を幅広く理解する態度を養い、心理学の基礎知識を自分の言葉で具体例を用いながら説明できるようになり、心の動きや健康について関心を持ち続けることができる。	
		地域文化入門	本授業では、古代から現代に至るまで島根県において育まれてきた地域文化について、特に島根県内に伝わるさまざまな文化財を取り上げながら紹介する。本授業の履修を通して、島根に遺る文化財について歴史上の意義を理解することができるようになるとともに、その文化財がわたしたちの社会において、なぜ・どのように重要なのか、自分の言葉で説明することができる。また、地域に眠る文化財の価値を認識し、他者に対して伝えることができる。	
		経済数学の基礎	本授業では、ミクロ経済学・マクロ経済学のほか経済学に関連する科目や、統計学を学修する上で必要となる数学（二次関数と微分、行列とベクトル、数列と差分方程式、指数と対数、確率・統計など）について学ぶ。授業においては、講義のほか、練習問題を解くことにより記憶の定着を図る。本授業の履修を通して、経済学に関係する授業を受講するにあたって必要な数学の知識と考え方を身につける。	
		自然地理学	本授業では、自然地理学分野のうち大気環境に係わる気候学を中心に講義を進める。授業は地球の熱収支という考えから出発し、太陽放射の季節的・地域的な差異が世界規模での気候の分化を引き起こしていることを学修する。さらに、日本の気候を取り上げ、その特性や成因を世界との比較を通して学んでいく。本授業の履修を通して、気候学における基本的な概念を身につけるとともに、我々が経験する何気ない気候・気象現象が地球規模での大気環境システムの反映であることを理解し、地球温暖化や気象災害などの解決・軽減に向けて自ら取り組んでいくことができる。	
		環境科学	本授業では「大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化、水環境、土壌汚染、食糧問題、放射能、廃棄と循環」など、自然環境と人間活動との関わりの中で起こる諸問題の実態と、その課題を明らかにしていく。本授業の履修を通して、これら環境科学の基礎的知識を修得するとともに、未来にむけて環境問題に対処していくための論理的思考を身につける。	
	自然科学	島根県の水産業	<p>本授業では、島根県における水産業について、海面の沿岸から沖合、内水面の湖沼河川で行われている漁業のほか、水産加工の現状と課題について学ぶ。授業はオムニバス形式で行い、水産技術センターが取り組んでいる試験研究の結果等を中心に解説を行う。本授業を通じ、島根県の水産業に対する理解を深めるとともに、水産業が抱えている諸課題の改善策や水産業を核とした地域振興策の提案ができる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）                      (63 若林 英人／1回)                      島根県の水産業（海面漁業、内水面漁業、関係組織 等）について概説する。                      (64 沖野 晃／3回)                      基幹漁業（沖合底びき網・まき網）の現状と課題を解説するとともに、収益性の高い経営体質への転換や漁獲対象資源の資源調査および資源管理強化への対応等の取組みについて解説する。                      (65 佐々木 正／3回)                      沿岸漁業の現状と課題を解説するとともに、天然資源の活用と無給餌養殖の取組み、栽培漁業の取組みおよび中海の漁業等について解説する。                      (66 開内 洋／3回)                      水産加工の現状と課題について解説するとともに、漁獲物の鮮度保持、成分分析および新たな水産加工品の開発等の取組みについて解説する。                      (67 福井 克也／4回)                      湖沼および河川における漁業の現状と課題について解説するとともに、主要資源の資源調査および資源管理の取組みを解説する。                      (68 川島 隆寿／1回)                      海面および内水面における漁業制度について解説する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教養 科目 目 群	一般 教養 科目	コンピュータ・リテラシー	本授業では、コンピュータに関する知識、技能を学び、高度情報化社会で必要とされる情報倫理についても学修する。具体的には、学内情報システムの利用方法、ワード、表計算、プレゼンテーション（パワーポイント）等の各ソフトの操作方法を学び、調査やレポート作成への応用練習を行う。また、情報セキュリティに関する知識についても学ぶ。本授業の履修を通して、レポートや論文作成時に必要な、データ分析、グラフ作成、プレゼンテーションソフト等を使いこなすことができる。
		情報リテラシー	本授業では、情報を収集・加工・蓄積するための基礎能力である情報リテラシーについて学ぶ。高度情報社会といえる現代においては、必要とされる情報の内容もさることながら、それらを有効に活用するための基礎能力もまた変化している。本授業では、情報リテラシーに関する基礎知識を提供するとともに、自己の生活に活用できるような最新手法を紹介する。本授業の履修を通して、大学生として身につけるべき情報リテラシーを修得するとともに、それを自己の生活に活用できる能力を身につける。
		統計学Ⅰ	本授業では主として記述統計を扱う。平均などの「まとまりの代表値」、標準偏差など「散らばりの代表値」を学び、これらの理解の上に「相関係数」「回帰分析」へと進んでいく。本授業の履修を通して、コンピュータ演習による実践を通じて理解を深め、講義レポートや、卒業論文執筆において、その主旨に適合するデータを収集することができ、適切な記述統計方法を選択することができる。
		統計学Ⅱ	本授業では推測統計を学ぶ。「統計学Ⅰ」で修得した平均値、標準偏差、分散などの理解をベースとして、確率分布に従って母集団における平均や分散あるいは比率の「推定」「検定」の方法を学ぶ。本授業の履修を通して、講義レポートの提出や卒業論文などの執筆において、収集した標本から母集団の特性を「推定」できる。あるいは基準値や既存データと比較した「検定」を行うことができる。
	連 携	教養ラボⅠ	本演習では、「学部学科や学年を超えた出会い」を創出し、学部学科学年が異なる学生たちが「課題探究」という視点で一つのクラスに集まって学ぶ。学生主体型の少人数演習（学部学科横断型の教養ゼミ）であり、「気づきをカタチにする」教養科目の新しい学び方を模索する実験室という意味で「教養ラボ」と名づけた。学生自らの興味や関心に基づいて、主体的・能動的に特定のテーマを探究し、大学生として必要な基礎的かつ汎用的能力、社会人基礎力を磨く。教養ラボⅠは「気づき」「主体性」を重視し、文章表現、情報収集、グループ学修、プレゼンテーション等を行う。本演習の履修を通して、他学部他学科の学生と学び、自らの専門への自覚を高めるとともに、他の専門の特色を理解することで多様な物の見方を知り、より広い視野で自らの専門を見る視座を醸成する。
		教養ラボⅡ	本演習では、学部学科横断型の教養ゼミとしてより「考える力」「学士力養成」に重きを置く。教養ラボⅡでは、グループ学修、プレゼンテーション、グループディスカッション、レポート執筆等を行なう。本演習の履修を通して、物事に対する多面的な理解力と深い洞察力、論理的・批判的な思考法と適切な自己表現能力を養い、大学生として必要な基礎的かつ汎用的能力、社会人基礎力を身につける。

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
語学・多文化理解科目	英語	英語 I	本授業では、大学生生活の英語コミュニケーションに必要な「聞く、話す、読む、書く」の4技能を学修する。学生は、学生生活、教員との会話、映画、買い物、食事、現代社会の話題など、大学生生活の会話を行う上で必要となる語彙、表現方法を学修する。授業では、ペア活動、グループ活動も行い、積極的にコミュニケーション能力を磨く。最初の45分は教師と対面授業を受け、次の45分は多読を行う。本授業の履修を通して、大学生生活において必要な英語の4技能を身につける。	
	英語	英語 II	本授業では、社会に出てから必要となる英語コミュニケーションに必要な「聞く、話す、読む、書く」の4技能を学修する。職場での会話、社会問題に関する話題についての会話、簡単なプレゼンテーションやスピーチ、メールやレターを書くことなど、社会人になってから必要とされる技能の基礎を学修する。授業では、ペア活動、グループ活動を行い、積極的にコミュニケーション能力を磨く。最初の45分は教員の対面授業を受け、次の45分は多読を行う。本授業の履修を通して、職場において必要な英語の4技能の基礎を身につける。	
基礎教養科目群	語学・多文化理解科目	英語	ビジネス英語入門 I	本授業では、TOEIC L & Rにおける基本問題を解くことを通じて、ビジネスにおける英語のコミュニケーション能力の向上を図る。本授業の履修を通して英語による場面描写、ビジネスの様々な場面での短い会話及び簡単な説明を聞き取ることができるリスニング能力を身につけることができる。また、ビジネスで使用される基本的な語彙・文法を学び、様々な文書の概要を把握し内容に関する基本的な質問に答えることができる読解力を修得することができる。目安としてTOEIC400点～450点を到達目標とする。TOEIC IPの受験が必要である。
		英語	ビジネス英語入門 II	本授業では、TOEIC L & Rにおける標準問題を解くことを通じて、ビジネスにおける英語のコミュニケーション能力の向上を図る。本授業の履修を通して、ビジネスの様々な場面での比較的長い会話及び説明を聞き取ることができるリスニング能力を身につけることができる。また、ビジネスで使用される語彙力・文法力の向上を図り、複数の文書間の情報を短時間で把握し内容に関する標準的な質問に答えることができる読解力を修得することができる。目安としてTOEIC450点～500点を到達目標とする。TOEIC IPの受験が必要である。なお、本授業の履修前に、「ビジネス英語入門 I」を履修しておくことが望ましい。
			海外英語研修	本授業では、協定等を締結した海外の大学で提供される英語学修プログラムに参加し、英語運用能力と異文化コミュニケーション能力の向上を目的に学修する。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後研修の3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。研修中は、世界各国から参加している他の英語学修者とともに英語の4技能を学ぶ。事後研修では、学修成果を報告する。本授業の履修を通して、英語力及び異文化コミュニケーション能力を高めることができる。なお、本授業の履修前に、「英語 I」を履修しておくことが望ましい。
		北東アジア	中国語 I	本授業では、異文化コミュニケーションを学ぶ基礎的な内容として、中国語を初めて学ぶ学生を対象とする。中国語の発音の基礎、ピンインによる表記法を学び、あいさつを交わす、名前を尋ねる、自己紹介をする、価格や日時を尋ねるなど、日常的な場面で頻繁に現れる自然な会話文のうち比較的平易な会話を学ぶ。また、名詞、動詞、形容詞などの各品詞の特性、文や動詞句、名詞句に見られる基本的な語順を中心とした文法構造、平叙文、疑問文、命令文など文の構造と特性など、中国語を理解するうえで必要な基礎的な文法事項を学ぶ。本授業の履修を通して、中国語の「聞く、話す、読む、書く」能力をバランスよく修得する。また、言語の背後にある中国語圏の文化や社会についての知識を深める。

授 業 科 目 の 概 要					
（国際関係学部 国際関係学科）					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
	ア言語 中国語Ⅱ	本授業では、中国語の学びを更に高めていくために、お願いする、出身地を尋ねる、人を紹介する、趣味の話をするなど、日常的な場面の中で頻りに現れる会話文のうち平易な会話を学ぶ。また、比較の表現、助動詞や前置詞、助詞などの用法、補語や状語などの文における特性や用法、現象文、使役文、受動文、連動文など複雑な文の構造と特性など、中国語を理解するうえで必要な文法事項を学ぶ。本授業の履修を通して、中国語の「聞く、話す、読む、書く」能力をバランスよく向上することができる。また、言語の背後にある中国語圏の文化や社会についての知識を深める。なお、本授業の履修前に「中国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。			
基礎 教養 科目 群	語学・ 多文化 理解 科目	北東 アジア 言語	海外中国語研修	本授業では、協定等を締結した海外の大学で提供される中国語学修プログラムに参加し、中国語運用能力と異文化コミュニケーション能力の向上を目的に学修する。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後研修の3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。研修中は、世界各国から参加している他の中国語学修者とともに中国語の4技能を学ぶ。事後研修では、学修成果を報告する。本授業の履修を通して、中国語及び異文化コミュニケーション能力を高めることができる。なお、本授業の履修前に、「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。	
			韓国語Ⅰ	本授業では、韓国語の文字と発音を学ぶことから始まり、簡単な日常会話をするための基本的な文法事項や単語、会話表現を学修する。韓国語や韓国の文化に慣れ親しむことにウェイトを置き、自己紹介や家族の紹介、好き嫌いなどの日常生活の様々な場面を想定して学修する。本授業の履修を通して、「聞く、話す、読む、書く」ことのできる総合的なコミュニケーション能力の基礎を身につけ、日常会話の様々な場面で用いられる基礎語彙と表現力を修得する。	
			韓国語Ⅱ	本授業では、初級レベルに相当する文法や表現などについて、「聞く、話す、読む、書く」の4技能を総合的に学修する。まず、発音領域では韓国語における多様な発音規則を体系的に学ぶ。表現領域では韓国の日常生活における基本的な語彙や会話（韓国の衣食住文化、公共機関の利用、買い物や旅行関連など）を学ぶ。文法領域では短文だけではなく、連結語尾や接続副詞などを活用した複文を学ぶ。本授業の履修を通して、韓国語の「聞く、話す、読む、書く」能力をバランスよく向上することができる。なお、本授業の履修前に「韓国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。	
			海外韓国語研修	本授業では、協定等を締結した海外の大学で提供される韓国語学修プログラムに参加し、韓国語運用能力と異文化コミュニケーション能力の向上を目的に学修する。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後研修の3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。研修中は、世界各国から参加している他の韓国語学修者とともに韓国語の4技能を学ぶ。事後研修では、学修成果を報告する。本授業の履修を通して、韓国語力及び異文化コミュニケーション能力を高めることができる。なお、本授業の履修前に、「韓国語Ⅰ」、「韓国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。	
			ロシア語Ⅰ	本授業では、ロシア語を初めて学ぶ学生を対象に、ロシア語の文字と発音を学ぶことから始まり、簡単な日常会話、自己紹介、趣味に関する話をするために必要な文法や単語を学修する。ロシア語の名詞にある女性、男性、中性の語尾の作り方、複数と単数の名詞の変化、動詞の過去形と未来形、完了体と不完了体の違いなどの基本的な文法事項を学ぶ。本授業の履修を通して、ロシア語の「聞く、話す、読む、書く」能力をバランスよく修得することができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	ロシア語Ⅱ	本授業では、初級レベルに相当する文法や表現などについて、「聞く、話す、読む、書く」の4技能を総合的に学修する。語彙量の拡大と同時に表現領域、相槌のパターン、簡単なことわざ、決まり文句などを取り上げる。日常生活における必要な知識（交通機関の乗り方、買い物の仕方、お世辞の言い方、電話の話し方、自分の家族の紹介など）を学ぶ。本授業の履修を通して、ロシア語の「聞く、話す、読む、書く」能力をバランスよく向上することができる。なお、本授業の履修前に「ロシア語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。		
	海外ロシア語研修	本授業では、協定等を締結した海外の大学で提供されるロシア語学修プログラムに参加し、ロシア語運用能力と異文化コミュニケーション能力の向上を目的に学修する。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後研修の3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。研修中は、世界各国から参加している他のロシア語学修者とともにロシア語の4技能を学ぶ。事後研修では、学修成果を報告する。本授業の履修を通して、ロシア語力及び異文化コミュニケーション能力を高めることができる。なお、本授業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」、「ロシア語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。		
基礎教養科目群	語学・多文化理解科目	日本語Ⅰ	本授業では、日本語能力試験N2レベルの留学生を対象とする。大学の専門科目への橋渡しを行うことを目的として、そのために必要な日本語の知識・技能を総合的に学ぶ。本授業の履修を通して、専門科目を理解するために必要な日本語の語彙・表現、文法の知識を得るとともに、社会科学分野の読み物についてその主旨を読み取ることができる読解能力、社会的な話題について自分の意見を述べることができる会話能力等を修得する。（到達目標は、日本語能力試験N1レベル、ないしはCEFRのB2レベルとする）	
		日本語Ⅱ	本授業では、日本語能力試験N2レベルの留学生を対象とする。本授業では、講義や研究発表を聞き取る、メモをする、発表資料を作成する、発表する、質問するなどの大学の講義、演習、ゼミ等において必要となる聴解、発表、質疑応答について学ぶ。本授業の履修を通して、講義や研究発表でよく使われる文型、表現、論の展開を理解するとともに、社会的テーマに関する発表資料を作成して発表、質疑応答を行う聴解・プレゼンテーション能力を身につけることができる。（到達目標は、日本語能力試験N1レベル、ないしはCEFRのB2レベルとする）	
		日本語Ⅲ	本授業では、日本語能力試験N2～N1レベルの留学生を対象とする。大学の専門科目への橋渡しを行うことを目的として、そのために必要な日本語の知識・技能を総合的に学ぶ。本授業の履修を通して、社会科学分野の専門科目を理解するために必要な日本語の語彙・表現、文法の知識を得るとともに、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章を読んで内容を理解することができる読解能力、複雑な話題について理由や社会的背景、関連事例を説明しながら論を展開することができる会話能力を修得する。（到達目標は、日本語能力試験N1レベル以上、ないしはCEFRのC1レベルとする）	
		日本語Ⅳ	本授業では、日本語能力試験N2～N1レベルの留学生を対象とする。本授業では、レポート、研究計画書、論文を書くなどの専門科目の履修、研究において必要となる学術的な文章表現と文章構成について学ぶことを目的とする。本講義の履修を通して、学術的文章でよく使われる文型、表現や文体、文章構成を理解することができ、読み手にとって分かりやすく、論理的で説得力のある文章を書く力を身につけることができる。（到達目標は、日本語能力試験N1レベル以上、ないしはCEFRのC1レベルとする）	
		異文化理解（アメリカ）	本授業では、協定等を締結したアメリカの大学における約3週間（春季休業中）の海外研修に参加し、集中的な英語学修とアメリカの大学生との交流を含む文化研修を中心とする。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後の振り返りの3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。本授業の履修を通して、語学力の向上と、アメリカの文化と社会への理解を深め、文化の多様性と共生について深く考えていく態度を養うことができる。	



授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	多文化理解	異文化理解（カナダ）	本授業では、協定等を締結したカナダの大学における約3週間（夏季休業中）の海外研修に参加し、集中的な英語学修とカナダの大学生との交流を含む文化研修を中心とする。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後の振り返りの3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。本授業の履修を通して、語学力の向上と、カナダの文化と社会への理解を深め、文化の多様性と共生について深く考えていく態度を養うことができる。	
		異文化理解（中国）	本授業では、協定等を締結した中国の大学における約1ヶ月間（夏季休業中）の海外研修に参加し、集中的な中国語学修と中国の大学生との交流を含む文化研修を中心とする。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後の振り返りの3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。本授業の履修を通して、語学力の向上と、中国の文化と社会への理解を深め、文化の多様性と共生について深く考えていく態度を養うことができる。	
基礎教養科目群	語学・多文化理解科目	多文化理解	異文化理解（韓国）	本授業では、協定等を締結した韓国の大学における約1ヶ月間（夏季休業中）の海外研修に参加し、集中的な韓国語学修と韓国の大学生との交流を含む文化研修を中心とする。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後の振り返りの3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。本授業の履修を通して、語学力の向上と、韓国の文化と社会への理解を深め、文化の多様性と共生について深く考えていく態度を養うことができる。
			異文化理解（ロシア）	本授業では、協定等を締結したロシアの大学における約1ヶ月間（夏季休業中）の海外研修に参加し、集中的なロシア語学修とロシアの大学生との交流を含む文化研修を中心とする。本授業は、事前研修、研修プログラム、事後の振り返りの3つから成り立っている。事前研修ではオリエンテーションを行い、研修先の現地事情、文化、社会、慣習等についての基礎知識を学び、安全かつスムーズに生活する準備を行う。本授業の履修を通して、語学力の向上と、ロシアの文化と社会への理解を深め、文化の多様性と共生について深く考えていく態度を養うことができる。
		多文化交流	本授業では、現代社会の諸問題について留学生と日本人学生が共に学び協働学修を行うことによって、多文化共生社会が抱える諸問題について学ぶとともに、異文化間コミュニケーション能力を高めることを目的とする。本授業では、まず外国人労働者、移民の受け入れや外国人児童生徒への教育等、多文化共生社会が抱える諸問題に関して教員の講義や資料の読解を通して基礎的な知識を得る。さらに留学生と日本人学生の混合チームにより課題に関する調査を行い、調査結果の発表、議論を通して理解を深める。本授業の履修を通して、国際的な課題を異なる社会的、文化的立場から考察する広い視野を得るとともに、異なる言語、文化を持つ相手と話し合い、自身の意見を効果的に伝えるコミュニケーション力を身につける。なお、留学生は必修科目とする。また、日本人学生は本授業の履修前に、「第2外国語」、「多文化共生論入門」及び「異文化理解」を履修しておくことが望ましい。	
		キャリアデザイン	本授業では、「大学の学び」と「社会やキャリア」との結びつきについての具体的事例に基づいて学ぶ機会を提供し、さらに、インターンシップ等の学外学修の意義を伝達する。また、積極的に活動している人物をロールモデルとして示し、学修意欲の向上を図る。授業形態としては、通常の講義のほか、グループワーク等を活用しながら授業を実施し、キャリア形成への内発的動機を育てつつ、自分の考えを明確に伝える「発信力」の強化を図る。本授業の履修を通して、学生が充実した大学生活を送り、人間のライフスタイルや働き方の変化などを踏まえ、主体的な生き方・進路選択をすることができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キ ャ リ ア 科 目	キャリアプランニング	本授業では、学生が、具体的な自身の進路及びそこに至るまでの道筋を描けるように学修する。具体的には、これまでの学生生活の振り返りから自己理解・自己PRの仕方について、さらには、社会の多様な業界・企業・職種・働き方について学ぶ。さらに、企業等で働いている社会人の講演等を通じて、業界動向や求められる人材像について学び、自己のキャリア形成に活用する。長い職業生活で直面する課題に対処する考え方・キャリアマネジメントについても理解を深める。本授業の履修を通して、職業生活という本格的なキャリアのスタートを切る前に、自分らしく、たくましく生きるために必要なことを実践的に身につける。	
	インターンシップ実習  ※2023年度より、科目名を「キャリアプラクティス」へ変更。	本授業では、企業等で一定期間、研修を受けることによって、社会で求められる人材像や自分自身の長所・課題を知り、ビジネスマナー等の実践力を培う。本授業は、主にインターンシップ直前のオリエンテーション、研修先でのインターンシップ実習、事後の報告会によって構成されている。本授業の履修を通して、以下4点を修得する。①就業体験から、業界・企業・官公庁・NPO等・職種に関する活きた知識（自分の目で見て、耳で聴いた知識）の大切さを理解できる。②働くなかで自分の長所・課題を理解し、長所を伸ばし、課題を克服する自己成長のプランを持つことができる。③基礎的なコミュニケーション（あいさつ等）の大切さを学び、ビジネスマナーの実践力を発揮できる。④働くことの意味について考える起点を獲得できる。	
	多文化共生論入門	本授業では、文化、言語、民族、宗教、国籍、障がいの有無、ジェンダー、セクシュアリティ等が異なる多様な人々が生きる多文化社会における共生とは何かを考察し、多文化共生に関わる理論・理念および実践例を学ぶ。授業では、多文化社会において主流をなすマジョリティと周縁化されたマイノリティとの間で、ある場合は包摂・共生が可能となり、ある場合は排除が横行する日本国内および海外の事例を紹介する。また、社会統合の理論・理念として、同化主義、多文化主義、間文化主義、シティズンシップの考え方を提示する。本授業の履修を通して、地域社会あるいは国際社会において、外国にルーツを持つ人々をはじめとした、多様な文化的背景を持つ人々との共生を到達可能な水準で実現するための実践的事例と、それらを支える理論・理念を理解できる。	
	国際文化論	本授業では、国際関係を抽象的な「国家間」(inter-state) 関係ではなく、人間の営み(文化)としてとらえた上で、文化の接触と変容という「文化触変」の視点から、時折不可避免的に相衝突する文化や、その担い手である人々が織りなす国際(inter-national) 関係について講じていきたい。思想、制度から生活の習慣、意識まで、様々な分野における文化触変が国際関係を作り出している。本授業の履修を通して、「共生」がますます強く要請されている現在の世界の中で、文化の多様性と文化の相互触発の複雑性に対する理解を身につけるとともに、国際関係をより広い視野の中でとらえることができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目群	国際関係学科共通科目	地域研究方法論	<p>本授業では、北東アジア地域の中のモンゴル・中国・朝鮮半島を主な対象として取り上げながら、その現地調査の方法や史資料活用法を学ぶ。本授業の履修を通して、地域研究に必須な地域言語の修得と地域事情理解のために効果的な現地滞在（留学）、その時に行うべき活動（知人づくり、文献収集など）、地域を知るための史資料とは何か、現地調査に向かう前の知識と情報蓄積の重要性、現地調査での心得などを修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （5 井上 治、11 福原 裕二／1回）（共同） オリエンテーションとしてオムニバス形式で展開する授業の進め方やその内容の概要ならびに「地域」とは何かについて概説する。 （11 福原 裕二／7回） 地域研究の成り立ちや意義、その研究の効果的な方法や限界性など、担当者の専門とする学問領域にそくしつつ、地域研究とは何かを概説する。また、朝鮮半島を対象地域として事例的に取り上げつつ、その地域の言語修得や地域事情理解に必要な工具・記録と情報の使い方、アンテナと感性の磨き方、主体的な思考力の養い方を解説する。 （5 井上 治／7回） 日本の地域研究（史）にみる地域研究の成り立ち・目的・方法・成果・限界を取り上げて地域研究の全体像を把握する。ついで、モンゴルや中国少数民族地域などでの担当者自身の調査事例を取り上げ、言語修得と地域事情理解の重要性を説き、その方法（留学、文献、人間関係）を紹介したのち、現地調査の理想的な進め方・取り組み方を解説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		平和学	<p>本授業では、前半は平和学の基礎的な知識、理論、戦争や紛争の実態、国連や外交交渉による解決方法の事例を学修する。後半は模擬国際会議を実施し、政策決定のプロセスを全員参加のゲーム形式で体験する。最終的には共同宣言を採択し、何等かの合意決議を導き出すことを目的とする。特に模擬国際会議やグループ討論では全員が外交官や報道官、国連事務局員となり役割に応じて会議に参加し議事進行運営を支える。テーマとしては北東アジア、欧米等の核軍縮問題や難民問題等を予定している。多人数の複合的な参加型学修プログラムである。本授業の履修を通して、平和学の基礎知識を身につける。</p>	
		ボーダースタディーズ	<p>本授業では、世界のあらゆる空間、人間生活のあらゆる領域に張りめぐらされているボーダー（border）のうち、とくに国と国の境を物理的に表現する国境を取り上げ、その確立経緯と意義、そこで発生する問題や紛争、そこを取り巻くダイナミズムや透過の動きを学ぶ。その際、北東アジア地域内の境界地域の動向、世界の領土紛争の展開、日本が関わる領土問題の問題性などを適宜取り扱う。本授業の履修を通して、「国境」を所与で静的なものだけでなく、可変的で動的な「その向こうに無限な可能性が広がる空間」を想像・創造することができるのに必要な知識と理解を身に付ける。また、「ボーダースタディーズの理解を通じた出身国における国境」をテーマとしたレポートを作成することができる。</p>	
	国際社会学	<p>本授業では、国境を越える社会現象や国民社会の多文化化について、国際社会学という視点から考察する。そのために、国際社会学の基礎概念と理論を学んだ上で、多文化社会の現実を検討する。具体的には、エスニシティと「人種」概念が社会的に構築される様相、国民国家の成立過程やグローバル化のもとでの国民国家の変容、国際的な人の移動の諸形態を概観するとともに、「国際移民の女性化」についても理解を深める。また、多文化社会の現実について、カナダが推進してきた多文化主義政策・移民政策を事例として学び、多文化共生を謳う日本との比較にも触れる。本授業の履修を通して、国際社会が直面している諸問題、特に国際的な人の移動の諸形態と具体的事例を、国際社会学の基礎的な概念や理論を用いながら説明できるようになり、多文化社会の現実に対応した国家・政府の政策を多文化主義や多文化共生という観点から評価できるようになる。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目群	国際関係学科 共通科目	文化人類学	本授業では、人類学の基本的理論と具体例を通して、人類文化の多様性と相互理解の重要性について学ぶ。本授業の履修を通して、フィールドワークによる現場の人々との対話と、自文化理解と異文化理解のコラボレーションを基本的作業とする人類学的思考法を修得することで、わかりあうことを究める姿勢を身につけ、自文化を相対化し、異文化との相互理解実践のためのインターカルチュラル・コミュニケーション能力の大切さを理解することができる。
		比較文化論	本授業では、古来から学者や旅行者、探検家たちが行ってきた文化の比較を検討し、また比較文化を学問として成立させた『菊と刀』とその評価を検討し、更に現代における比較文化論の展開を検討することによって、文化を比較するという行為の意味とその影響範囲の広さを学ぶ。受講生には、グループワークや発表の機会を与え、主体的な問題として文化を比較するという行為について考察する。本授業の履修を通して、比較文化論の歴史と基本的概念を自分の言葉で説明することができる。
		アメリカ文学	本授業では、アメリカ文学について、19世紀後半までの代表的な作品や文献資料の一部を抜粋し、講読する。また、それらの作品が書かれた時代背景に関する知識を深めるとともに、文学作品の分析・評価のための基礎的事項（文学用語など）も学び、作品理解を深める。また、20世紀後半の短編小説についても講読する。本授業の履修を通して、19世紀後半までの、代表的アメリカの作家・詩人・思想家などについて、彼らが生きた時代と彼らの作品についての知識を得て、主要作品について解説することができる。また、第Ⅱ次大戦後のショートストーリーを読むことで、多文化社会を舞台にしたストーリーのテーマについての理解を深めることができる。
		イギリス文学	本授業では、英文学史上、その分水嶺ともいえる初期近代文芸復興期（ルネサンス）の詩文学（ウィリアム・シェイクスピア、アンドリュー・マーヴェル作品等）を中心に、英文学を読み解くための精読の訓練を行う。授業構成は、講義形式に加え、小グループによる研究発表、ディスカッションを行う。本授業の履修を通して、英語を正確な文法に基づいて分析的に解読する力、文学的批評眼を養い、英語で書かれた文学作品について論理的に思考・表現することができる。
		憲法Ⅰ	本授業では、主に、憲法が保障する権利について学ぶ。具体的には、日本憲法史、主権理論、権利の保障総論、包括的基本権と平等原則、精神的自由権、経済的自由権、国務請求権・社会権、参政権等の各論点を網羅し、学説・判例等に触れつつ学びを深める。本授業の履修を通して、憲法が権利を保障する意義、権利保障の歴史的経緯、各権利の内実、個人に権利を保障する近代国家・社会の特質について理解を深めることができる。
		社会学	本授業では、社会学の基礎的な概念や理論を取り上げながら、さまざまな社会現象や社会的トピックについて考察することを通じて、社会学の基本的な考え方や視座を修得する。本授業では、社会構造といったマクロな視点を重視し、近代化、格差社会、消費社会、リスク社会、グローバリゼーションなど、私たちの日常生活を知らぬ間に規定している社会現象を主たる考察の対象として解説を進めていく。本授業の履修を通して、現代の社会構造について社会的に分析する能力を身につける。
	国際関係	地域資源論	本授業では、地域活性化には地域に賦存する資源を発掘し、再評価し、磨き上げ、活用していくことが重要であるとの認識から、地域資源のとらえ方と保全、活用のあり方を学ぶ。その際、近年必要性を増している観光への活用を想定して、これを考える。そのために、観光にかかる基礎的な知識も修得する。具体的には、さまざまな自然資源や人文資源をとりあげ、それらにどのような価値があり、どのように保全され、また、活用されてきたのかを考察していく。本授業の履修を通して、学生みずからが地域活性化に活用しうる地域資源を見いだすことができる。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際関係学部 国際関係学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
係学科共通科目    専門基礎科目群    国際関係コース科目	SDGs概論	<p>本授業では、2030年までの世界共通の開発目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」について、目標が設定された背景の理論的枠組みを理解すると共に、具体的な取り組みについて学ぶ。SDGsは17の開発目標が設定されているが、一つの目標を達成するためには、ほかの目標に関わる課題にも取り組まなければならない。それぞれの目標にどのような課題があり、ほかの開発目標にどのような影響をもたらしているのか、一つの開発目標に注目するのではなく、17の目標を体系的に捉えていく。また、グローバル化が進む中、ローカルな地域課題が日本やグローバルな課題とどのような関連があるのか、複合的な視点で学ぶことを目的としている。本授業の履修を通して、課題のメカニズムや課題解決のための手段を体系的に整理することができ、ローカルの課題と地球規模のグローバルな課題との関連について理解を深めることができる。</p>	
	国際関係概論	<p>本授業では、初学者が、国境を越える地球規模の課題の具体的な現象について知識を深めると同時に、国際関係論の基礎的な理論的枠組みを用いて、これらの国際的現象を分析する方法を学ぶ。授業では、大量破壊兵器拡散、自由貿易、人道的介入、貧困削減、開発援助、内戦、難民、気候変動などの具体的事例を取り上げる。同時に、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズム、フェミニズム等の理論的基礎を紹介する。本授業の履修を通して、国家間関係に加え多様な非国家アクターを交えた重層的な国際関係に関する基礎的知識を身につけ、授業内で紹介した事例について理論的に分析する初歩的手法を獲得することができる。</p>	
	政治学概論	<p>本授業では、「政治」に関連したさまざまな概念・原理・語句、たとえば権力と権威、立憲主義、自由と平等、デモクラシー、政治的無関心、ナショナリズムなどの基本的意味と歴史的変遷を中心に学ぶ。本授業の履修を通して、受講生は私たち一人一人が主権者として「政治」とどのようにつながっているのか・関わっているのかについて、「政治学」の観点から自分の頭で考え抜き、自らの言葉で説明できるようになることを目標とする。あわせて、国際関係学を学ぶ上で必要となる「政治学」的な観点や諸概念の理解を身につける。</p>	
	政治学	<p>本授業では、政治制度と政治理論の基礎知識の修得を一義とする。政治的主体である市民と政治との関係、そして市民が果たすべき義務、権利の意義の理解に努める。特に模擬投票などを通じて有権者の政治意識と政治参加を促すことも目標に置く。近年、若年層の投票率低下と政治的無関心が問題とされており、2015年の公職選挙法改正後の18歳、19歳の投票の意義についても学ぶ。本授業の履修を通して、能動的、主体的な政治意識を身につけるための幅広い政治的教養を修得する。</p>	
	北東アジア関係概論	<p>本授業では、現今の日本と日本を取り巻く北東アジア地域の今日的関係が構築されてきた近代史上の出来事と、その今日的関係を象徴する問題群を事例としてとりあげ、関係論的視点からの評価を示す。これを通じて、①北東アジアの近代化は西欧発の南回りの衝撃ではなく、ロシアを経由した北回りの衝撃によって始まったこと、②中国、朝鮮、モンゴル、ロシアそれぞれに前近代的な独自の地域秩序があったが、それが近代日本のアジア進出以前に一定の近代的变化を被った結果、各地各国の現代的問題として残っていること、③帝国日本の近代化には北東アジア地域への進出が大きく関与していたこと、④日本敗戦後に北東アジア地域に東西イデオロギー対立が生まれ、その構造は今も残っていること、⑤歴史的に日本が北東アジア地域諸国との間で抱えたイデオロギー対立・領土・エネルギー資源という問題はすべて今日の北東アジアの基本的問題として残存していることを学ぶ。本授業の履修を通して、北東アジア地域の近代史上の出来事及び歴史的背景を理解することができる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目群  国際関係コース科目	国際政治学	本授業では、国際政治の史的展開についての基本的な知識を修得し、今日の国際政治の特質を批判的に見ることのできる力を養うことを目標とする。授業を進めるに際しては、18,19世紀のヨーロッパ国際政治から始めるが、力点が置かれるのは20世紀後半の冷戦という時代である。近代ヨーロッパ国際政治史の展開を踏まえた上で、20世紀の国際政治、とりわけ冷戦期国際政治の変容をたどることになる。そのような作業こそが、依然として混沌としている21世紀の国際政治を把握するために必要となるからである。本授業の履修を通して、履修者は国際政治の歴史的展開について、自分の言葉で説明できるようになる。	
	北東アジア国際関係史	本授業では、いわゆる通史の方式をとらずに、「革命」と「戦争」を中心に、近現代の北東アジアの歴史を振り返り、その「光」と「影」について考えたい。授業では「明治維新」や「日清戦争」、「日露戦争」などの歴史的出来事をめぐって、日本や、中国、朝鮮半島、そして、ロシア、モンゴルなど、多角的視点から立体的に捉える。本授業の履修を通して、激動した近代北東アジアの国際関係を修得するとともに、ナショナル・ヒストリーの限界性を自覚して、異なった歴史認識の歩み寄りの可能性について考えることができる。なお、本授業の履修前に、「歴史学概論」と同程度の内容が身につけていること。	
	アメリカ政治外交論	本授業では、アメリカ合衆国の国内政治と対外政策の連動に着目して、アメリカ政治・外交の特質を理解することを目的とする。授業では、合衆国建国以来の国家理念と孤立主義的伝統に留意しつつ、アメリカが、領土拡張・南北戦争後の再統合・大国化を経て、20世紀以降の国際秩序形成に関与するに至る歴史的展開を、政治学、国際関係論、アメリカ外交史の知見を取り入れながら解説する。本授業の履修を通して受講生は、21世紀世界においても国際政治経済に影響を与えるアメリカの内政と外交について、歴史的背景、政治・統治構造、民主主義社会のダイナミズムの観点から理解する視座を身につけることができる。	
	アジア経済論	本授業では、現代アジア地域の経済に関する知識を学び、「東アジアの奇跡」と称された経済発展のメカニズムとグローバル化に伴うアジア経済の新しい動きや課題を概観することを目的とする。この授業で、アジア経済のダイナミズムを把握し、アジア域内の経済関係および日本とアジアとの相互依存関係を理解するために、第二次世界大戦後のアジア諸国による開発国家戦略の歴史的展開と現代的状況について、「開発国家論」(developmental state)を下敷きに東アジア・東南アジア諸国の高度経済成長の達成や停滞の要因を論じる。また、東南アジア諸国連合(ASEAN)を中心とした東アジア・東南アジアの地域経済統合の動向を具体的に理解するために、主要国の二国間自由貿易協定(FTA)/経済連携協定(EPA)の展開、APEC、ASEAN経済共同体、CPTPP、RCEPなどの多国間枠組みについても紹介する。本授業の履修を通して、アジア地域の開発主義的国家戦略の趨勢を分析する視角を修得できる。	
	日本外交史	本授業では、近現代日本外交の歴史的展開と学説について学ぶ。授業を進めるに際しては、講義のみならず、公開されている外交文書を読み込むことで、政治指導者や政策作成者の構想にも迫ることを目的としたグループディスカッションなども実施する。本授業の履修を通して、19世紀中葉から21世紀初頭に至るまでの国際社会において、国民国家としての日本がどのような外交行動様式をとってきたのか理解し、自分の言葉で明治以来の日本外交史の概要を説明することができる。	
	政治思想史	本授業では、民主主義と近代化、そして政治と宗教の関係を軸として西洋政治思想を通史的に学修する。古典を紹介し、近代化(Modernization)がなぜ西洋においてのみ体现されたかという疑問、近代化と西欧という特殊具体的状況の親和性を考察する。近代には光と陰の両面があり、西欧的近代は合理化を推進させ豊かさや恩恵をもたらした一方で、ナチズムのような非合理をもたらしたことも事実である。それゆえ近代は批判的に省察する必要もある。近代政治思想史から現代政治の諸問題、民族の共存、討議的民主主義についても射程に入れ学修する。本授業の履修を通して、西欧の政治思想家の理論の基礎知識を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目群 国際関係コース科目	モンゴル語と文化	本授業では、初めてモンゴル語を学ぶ受講者を対象にして、モンゴル語の発音、日常会話、基本文法など、モンゴル語の知識と技能を学ぶ。また、モンゴルの基礎文化について、語学の学修と関連付けて総合的に学ぶ。本授業の履修を通して、モンゴル語の基本的な仕組みを理解し、モンゴル語の初歩的なコミュニケーション能力を身に付ける。一方、アルタイ型言語であるモンゴル語を学修することを通して、基礎的な言語知識を身に付け、自分自身の母語への理解を深める。また、遊牧文化を基礎とするモンゴル文化の知識を身に付ける。	
	質的調査法	本授業では、2種類の社会調査（統計やアンケートなどのデータを分析する定量的な調査手法と、ヒアリング情報や資料を解析する定性的な調査手法）の内、質的調査手法を対象とする。質的調査の持つ方法論的特性を理解したうえで、質的調査の複数の手法のそれぞれについて基本的な考え方と技法、実践の際の注意点、取得データの分析・解釈の方法について学ぶ。本授業の履修を通して、質的調査の基本的な考え方及び技法を修得する。	
	数的処理の基礎	本授業では、数的処理について学ぶ。数的処理は、「数的推理」、「判断推理」、「資料解釈」の3分野に大別されるが、そのうちの数的推理、判断推理を主に扱う。各回、例題を通して基本的な解法について理解し、類似の演習問題を解くことにより理解を深め、速く正確に正解に辿りつける力を身につける。本授業の履修を通して、数的処理を体系的に学び、理論的に考える力を身につける。	
	経営学総論	本授業では、企業の外部環境への対処や組織存続・維持、成長への取り組みに必要となる管理活動、またはそこで活用されるシステムといった組織マネジメント全般に関する基礎知識について学ぶ。第1部では環境のマネジメントとして企業の対外活動の中心をなす戦略と、資本と雇用の構造選択に関して、第2部では組織内部の管理活動を中心に協働システムの成立条件・維持に必要な活動およびシステムを紹介し、第3部では企業が成長発展のためにどのような活動を実施しているのかを学修する。第4部で、日本企業の経営行動やシステムの変遷と、経営における最新の現象、理論について学ぶ。本授業の履修を通して、経営学の基礎的な知識と概念を自己の言葉で説明できる、または経営の問題について論理的に思考・表現することができる。	
	マクロ経済学	本授業ではマクロ経済学の入門レベルの内容を取り扱い、「GDPの概念」、「財・サービス市場の均衡」といった大きく2つのテーマについて解説を行う。「GDPの概念」では、GDPにおける生産、分配、支出といった3つの側面および名目と実質の違いについて学ぶ。「財・サービス市場の均衡」では、消費や投資がどのように行われるか、45度線グラフにより財やサービスの需要と供給の均衡がどのようなプロセスによって達成されるかを学び、そのうえで政府支出の増加や減税といった財政政策によってGDPがどのように高められるか、その政策効果について学ぶ。本授業の履修を通じて、理論と現実の両面についての知識を修得し、マクロ経済に関する諸問題について論理的に考察することができる。	
	ミクロ経済学	本授業では家計や企業の行動原理および、市場による資源の最適配分のメカニズムについて学ぶ。すなわち、人々が利己的な経済行動を前提としても、それが社会の成員全体の利益にかなうものであり、原則として政府の介入は市場をゆがめてしまうことを理解する。つまり、自由な競争市場を確保することが政策上は優先されるべきことを学ぶ。しかし、市場経済は万能ではない点も同時に学び、そこに政府の役割があることを理解する。本授業の履修を通して、経済学的な考え方を修得し、他の応用科目を学ぶ上での基礎を身につけるとともに、政府の役割について理解することができる。	
行政学	本授業では、国家統治の権力を立法権、司法権、行政権に三分割して整理した上で、その内の立法権と行政権に着目し、裁判所による行政統制と行政法による法的解釈とは別の政治制度や行政管理、さらには政策形成など、およそ現代国家に必要な国家統治に関する行政機能について制度を中心に学修する。本授業の履修を通して、日本はもとより先進諸国家の行政機構を始めとした統治制度や、更にはそれらによって産出される政策の効果についての比較分析ができる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(国際関係学部 国際関係学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際関係学部 国際関係学科 国際関係コース科目 国際コミュニケーションコース科目 国際コミュニケーションコース科目 言語学・コミュニケーション学	国際関係コース科目 歴史資料解読法	本授業では、島根県の歴史を知るための必須作業である島根県が保有する歴史資料（特に江戸期に書かれた漢文史料や戦前の資料）を取り上げ、それを正確に解読する技法を学ぶ。本授業の履修を通して、学生は歴史的資料の読み方について基礎から学修することができる。また、資料から読み取られた島根県の歴史的変動について理解を深め、それがどのように現代に継承され（あるいは断絶され）ているかについて理解を深めることができる。	
	コミュニケーション学概論	本授業では、コミュニケーションの基本的な理論や概念を学び複雑な人間のコミュニケーションをより理解することを目的とする。一対一、グループ、組織、マスメディア、インターネット、広告、異文化などのレベルやコンテキストにおいて、言語や非言語のメッセージがどのようにやりとりされ、どのような意味が解釈されるか、コミュニケーションが社会にどのようなインパクトを与えているかを多様な観点から検討する。本授業の履修を通して、言語や非言語および多様なメディアを用いたコミュニケーションを学問的に描写し、自己のコミュニケーション能力を客観的に認識し、メッセージの受け手に合わせて言語・非言語のスキルを使い分ける重要性を理解することができる。	
	言語学概論	本授業では、主に国際コミュニケーションコースの学生を対象にして言語学の中心となる諸分野(音声学・統語論・形態論・意味論・語用論)とその周辺分野(社会言語学・言語の変化)について学修する。本授業の履修を通して、音声の理解、文や語の構造の解明、言語が持つ意味や実際の言語運用の分析、社会における言語や言語と文化など、言語の構造や機能に関する基礎知識を身につけ、多角的な視点から言語を分析的に理解できる素地を身につける。	
	英文法	本授業では、中学校・高等学校で学修した英文法をベースに、文法項目を単に暗記するのではなく英文法の背後にある仕組みについて考え学んでゆく。名詞、冠詞、代名詞、形容詞、副詞、動詞など英語の文法で扱われる基本的な項目を中心に扱う。本授業の履修を通して、英文法の背後にある仕組みを自ら考え、調べ、解答を探る活動を通じて英語を分析的に理解できる力を養い、英語におけるコミュニケーション能力に必要な正確な英語の理解力と発信力を身につける。	
	音声学	本授業では、音声学の基礎となる「調音音声学」を中心に、人間が音声を使ってコミュニケーションを取る時にどのように口を動かして音を発するのかを学ぶ。音声器官の概要やその働きを理解し、子音と母音がどのようなものなのかを理論的に学修する。本授業の履修を通して、単音を実際に正しく聞き取り、発音できるようになり、国際音声字母 (IPA) の方法論的な考え方を身につけ、実際の音声 IPA によって記述するための基礎的な技能を修得する。	
	英語音韻論	本授業では、音声学の知識を基礎として、英語の音声と音韻の仕組みについて学ぶ。また、日本人英語学修者が困難を抱える母音と子音の発音、英語に特徴的な音素の配列、音の変化、リズム、イントネーション、アクセントの理論と技術を学ぶ。本授業の履修を通して、ネイティブスピーカーの話す英語をよりよく聴解できるようになると同時に、相手に理解されやすいスピーキングができるようになる。また、英語の音声や単語の綴りの理論、センテンスの韻律を細かく観察することによって、より繊細な英語学修者になることができる。なお、本授業の履修前に、「音声学」を履修しておくことが望ましい。	
	社会言語学	本授業では、社会と言語の関係を広い視野から捉え、社会階層と地域における言語の多様性、男女のことばの違い、地域方言と社会方言、言語接触と言語変化などのテーマを扱いながら、言語が現実の社会においてどのように使われ、どのように変化しているかを探求する。本授業の履修を通して、社会と言語の関係および社会と関わる言語現象を説明することができる。また、社会言語学の調査・分析の方法を身につけると同時に、自ら課題を見つけて調査研究を行い、その結果を論理的にまとめることができる。	
比較言語文化論	本授業では、地域、階級、年齢、性別など様々な社会背景的要因と使用言語の関連性について比較分析を通して学ぶ。本授業の履修を通して、ヨーロッパにおける様々な英語、アジア諸国における英語の受容など、新たな視点から国際共通語としての英語を捉える姿勢を身につける。さらに、ヨーロッパ、アジア諸国における言語政策について学び、国際化と英語の未来について幅広い視野に立って考えることができる。		



授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際コミュニケーションコース科目 専門基礎科目群	言語学・コミュニケーション学	異文化コミュニケーション論	本授業では、心理学、文化人類学、文化研究の理論を用いて、文化とは何か、コミュニケーションとは何か、なぜ人は固定概念を持つのか等の基本的な異文化コミュニケーションの概念を学ぶ。本授業の履修を通して、異文化コミュニケーションの基本的な考えを学び、経験、言語、文化など、個人のバックボーンの違いにより誤解や対立が生じやすいことを理解し、様々なコミュニケーションのスタイルや背後にある考え方を認識することができ、同時に文化の多様性の良さに気づくことができる。
	英語	英語コミュニケーションⅠ	本授業では、海外の協定校の学生と英語による活動を通じて、実践的なコミュニケーション能力を育成する。受講生は海外の学生と共に小グループに分かれ、テレビ会議システムやEメール等を活用してグループワークを行う。グループのメンバーとは、定期的に意見交換を行うほか、協力してプレゼンテーション資料を作成する。各グループで任意に設定したテーマについて、お互いの国の状況、課題を説明し、解決策を提案する。本授業の履修を通して、学生は以下の活動が英語でできる。①SNSを活用して英語で意見を述べること、②海外のパートナーとコミュニケーションの機会をつくり、グループワークを遂行すること、③海外のパートナーの社会情勢を理解すること、④英語で毎日の記録を取ること。なお、本授業の履修前に、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。
		英語コミュニケーションⅡ	本授業では、海外の協定校の学生と英語による活動を通じて、実践的なコミュニケーション能力を育成する。「英語コミュニケーションⅠ」とは異なる国の学生と共に小グループに分かれ、テレビ会議システムやEメール等を活用してグループワークを行う。グループのメンバーとは、定期的に意見交換を行うほか、協力してプレゼンテーション資料を作成する。各グループで時事問題に関するテーマについて、お互いの国の状況、課題を説明し、解決策を提案する。本授業の履修を通して、学生は以下の活動が英語でできる。①SNSを活用して英語で意見を述べること、②海外のパートナーとコミュニケーションの機会をつくり、グループワークを遂行すること、③海外のパートナーの社会情勢を理解すること、④英語で毎日の記録を取ること、⑤日本の社会事情を的確に相手に伝えること。なお、本授業の履修前に、「英語コミュニケーションⅠ」を履修しておくことが望ましい。
		エッセイライティングⅠ	本授業では、英文法の知識を基礎として、様々なエッセイの書き方を学ぶ。エッセイはあるトピックに対してまとまった考えを述べるものであり、5つのパラグラフから構成されるものを基本とする。授業では、アイデアの産出、主題、論証、下書き、校正、発表というライティングの手順に従って、様々なトピックについてのエッセイを書き、物語・論述・プロセス・説得など、様々なパターンでのエッセイの書き方を学んでいく。書いたエッセイは本学が運営している英字新聞と英字Webサイトに発表する。本授業の履修を通して、様々なパターンでのエッセイを書くことができ、英語による情報発信能力を高めることができる。
		エッセイライティングⅡ	本授業では、総合的なエッセイライティングを学ぶ。英字新聞やアカデミックなテキストや、または、Webサイト上のレクチャーなどを用いて、話された、または、書かれた内容を要約し、その内容を評価し、論理的でアカデミックなエッセイを書くことを学ぶ。書いたエッセイは本学が運営している英字新聞と英字Webサイトに発表する。本授業の履修を通して、正確なリーディングとリスニングの能力、注意深い原稿の校正の仕方を修得し、英語による情報発信能力を高めることができる。なお、本授業の履修前に、「エッセイライティングⅠ」を履修しておくことが望ましい。
英字新聞リーディング	本授業では、英字新聞の見出しの構造や書き出しの構造を理解した上で様々な分野の新聞記事を読み、英文読解力や英語の語彙力を養成する。本授業で取り扱う分野は政治、経済、社会、環境、教育、文化、観光、スポーツなど多岐にわたり、様々な分野の語彙を学ぶ。本授業の履修を通して、日常で使用される語彙や表現だけでなく英字新聞やニュース記事特有の語彙や表現も知識も身につける。また英語の読解力や英語の語彙力だけでなく社会情勢に対する知識およびジャーナリスティックなテキストの構成を理解する力を身につける。		

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際コミュニケーションコース科目 専門基礎科目群	英語	英語アカデミックリーディング	本授業では、アカデミックな英文を理解するために筆者の主張の展開方法に注目しながら英文を読むための様々なリーディング方略について学ぶ。本授業の履修を通して、様々な分野のアカデミックな英文を実際に読むことで、適切なリーディング方略を用いながら内容を把握する力を身につけることができる。また、各ジャンルに特徴的な語彙力の増強を図ることにより英文読解に役立てることができる。語彙力の増強にあたっては英文トピックのキーワードを中心とした語彙ネットワークの作成方法と活用方法を学び効果的にアカデミックな語彙を修得する。
	北東アジア言語	中国語コミュニケーション I	本授業では、中国語のコミュニケーション能力の基礎として、初対面のあいさつや自己紹介の場面、友だちの家を訪ねる場面、商店で買い物をする場面、道を尋ねる場面など、日常生活で遭遇する様々な具体的な場面において、中国語での基礎的な会話を学ぶ。そのために、中国語の発音やイントネーションの特性を理解した上で、具体的な場面での会話文を聴き取る能力、話す能力を高めていく。また、会話に必要な様々な文型、話を進めるために欠かせない語彙を学ぶ。本授業の履修を通して、中国語の基礎的な会話を身につけ、併せて、中国語の会話の背後にある中国語圏の文化や社会についての知識を深める。なお、本授業の履修前に、「中国語 I」、「中国語 II」を履修しておくことが望ましい。
		中国語コミュニケーション II	本授業では、実践的な場面を中心に、中国語の発音やイントネーションをブラッシュアップし、聴き取り能力、話す能力を更に高め、実際の会話に必要な多くの文型や多くの語彙を学ぶ。また、身振り手振りなどの非言語コミュニケーションや会話をスムーズに進めていくための方策などの知識を学ぶ。本授業の履修を通して、中国語のコミュニケーション能力を高めることができ、中国語で知的な日常会話を自立的に交わすことができる。また、中国語の会話の背後にある中国語圏の文化や社会についての知識を深めることができる。なお、本授業の履修前に、「中国語コミュニケーション I」を履修しておくことが望ましい。
		中国語読解 I	本授業では、比較的平易な中国語の文章を読み、その内容を理解する。テキストの朗読を通しての発音の矯正、基礎文法の確認、読解に必要な新たな文法事項の拡充、現代社会に関する語彙の導入などにより、読解能力を高める。中国の時事問題に関する文章をテキストとして用い、テキストに現れる現代中国の社会や文化に関する様々な面について学び、学生自らがそれらの問題について文献やインターネットを用いて調べ、発表を行う。さらに、中国映画を鑑賞し、中国語圏の社会と文化の理解を深める。本授業の履修を通して、比較的平易な中国語の文章を読み、内容を理解し、自然な日本語に翻訳することができる。なお、本授業の履修前に、「中国語 I」、「中国語 II」を履修しておくことが望ましい。
		中国語読解 II	本授業では、一般的な中国語の文章に近い文章を読み、その内容を理解すること、それを自然な日本語文に翻訳できるように学ぶ。また、テキストの朗読を通しての発音の矯正、基礎文法の確認、読解に必要な新たな文法事項の拡充、中国の社会や文化に関する新たな語彙の導入などにより、読解能力を更に高める。中国の時事問題に関する文章をテキストとして用い、テキストに現れる現代中国の社会や文化に関する様々な面について理解すると共に、学生自らがそれらの問題について文献やインターネットを用いて調べ、発表できるようにする。さらに、中国映画を鑑賞し、中国語圏の社会と文化の理解を深める。本授業の履修を通して、一般的な中国語の文章に近い文章を読み、その内容を理解し、自然な日本語に翻訳することができる。なお、本授業の履修前に、「中国語読解 I」を履修しておくことが望ましい。
		韓国語コミュニケーション I	本授業では、中級前半レベルの文法事項を学修する。具体的には、指示・命令、許可の授受、接続表現などを学修し、様々な意図を実現することが可能になる。また、決まり文句以外に、連語など組み合わせとして用いられる表現や使用頻度の高い慣用句について学び、身近な話題ばかりではなく、社会的な出来事についても話題にできる。一連の学修を通じて、韓国の社会や文化への理解をさらに深めることができる。本授業の履修を通して、日常会話の様々な場面で使われる韓国語表現を身に付け、総合的なコミュニケーション能力を向上することができる。なお、本授業の履修前に、「韓国語 I」、「韓国語 II」を履修しておくことが望ましい。

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目群 国際コミュニケーションコース科目 北東アジア言語	韓国語コミュニケーションⅡ	本授業では、基礎文法事項を固め、日常の様々な場面で必要な情報を引き出し、大体の意図を伝えることができるよう語彙力や表現力を養うことを目的とする。依頼や誘いの受諾や拒否などの表現を正確に使えるなど、コミュニケーションの目的を実現するための様々な表現手段や方法を身につけていく。本授業の履修を通して、日記や手紙、メールなど比較的長い文やまとまりを持った文章を読んだり、聞いたりして、その意味を正確に理解できる。また、慣用句に加えてことわざなどについても理解し、使用することができる。なお、本授業の履修前に、「韓国語コミュニケーションⅠ」を履修しておくことが望ましい。	
	韓国語読解Ⅰ	本授業では、中級前半レベルの文法事項を中心に学修する。韓国の経済や、政治、歴史、韓国人の生活様式など、韓国の文化や社会についてわかりやすく書いた文章を教材とし、読解能力とともに韓国の文化や習慣なども併せて学修する。文語（書き言葉）表現にたくさん接すること（多読）によって読解能力の上達を図る。また、知らない表現や語彙で書かれている文章についても、辞書やインターネットなどを用いて調べ、どのように読み、理解するか学ぶ。本授業の履修を通して、韓国語で書かれている文語的な文章を読み、理解することができる。韓国語の文化や習慣も理解する。なお、本授業の履修前に、「韓国語Ⅰ」、「韓国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。	
	韓国語読解Ⅱ	本授業では、中級前半レベルの文法を一通り学修し、まとまりのある文章への理解力を高める。韓国語読解Ⅰでは初級レベルにあった文を対象としていたが、韓国語読解Ⅱでは新聞や、時事雑誌、専門書、文学作品など、より高度な文型や語彙で書かれている文章を多読する訓練を行って読解能力の上達を図る。本授業の履修を通して、より高度な文型・語彙の韓国語への理解を深め、多少わからない表現や語彙などのある文章に対して辞書などを使わずに、推論を通じて理解できる読解力をも身につける。なお、本授業の履修前に、「韓国語読解Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。	
	ロシア語コミュニケーションⅠ	本授業では、ロシア語のコミュニケーション能力の基礎として、初対面のあいさつや自己紹介、友人宅の訪問、ショッピングなど、日常生活で遭遇する様々な具体的な場面において、ロシア語での基礎的な会話を学ぶ。そのために、ロシア語の発音やイントネーションの特性を理解した上で、会話文を聴き取る能力、話す能力を高めていく。また、会話に必要な様々な文型、話を進めるために欠かせない語彙を学ぶ。本授業の履修を通して、ロシア語の基礎的な会話を身につけ、併せて、ロシア語の会話の背後にあるロシア語圏の文化や社会についての知識を深める。なお、本授業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」、「ロシア語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。	
	ロシア語コミュニケーションⅡ	本授業では、ロシア語の発音やイントネーションをブラッシュアップし、聴き取り能力、話す能力を更に高め、実際の会話に必要な多くの文型や多くの語彙を学ぶ。また、ロシア語独特の名詞の性、数、格の変化や動詞の人称変化などを修得することにより、ネイティブにも伝わりやすい表現を学ぶ。本授業の履修を通して、ロシア語を使ったコミュニケーション能力を高めることができ、ロシア語で日常会話を交わすことができる。また、文学作品などを取り上げ、ロシア語の会話の背後にあるロシア語圏の文化や社会についての知識を深めることができる。なお、本授業の履修前に、「ロシア語コミュニケーションⅠ」を履修しておくことが望ましい。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ロシア語読解Ⅰ	本授業では、平易なロシア語の文章を読み、その内容を理解することを目的とする。既修得語彙の多くが使われたロシア語のテキストを教材として、文法を確認しながら精読する。ロシアの文学作品や手紙などを日本語に翻訳することを通じて、文法力と語彙力を増強する。また、テキストを朗読し、発音の矯正、基礎文法の確認、読解に必要な新たな文法項目の拡充、現代社会に関係する語彙などを扱う。本授業の履修を通して、辞書を使いながら、まとまった量の簡単なロシア語の文章を読むことができる。なお、本授業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」、「ロシア語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。	
専門基礎科目群	国際コミュニケーションコース科目 北東アジア言語 ロシア語読解Ⅱ	本授業では、比較的平易なロシア語の文章を読み、その内容を理解することを目的とする。既修得語彙の多くが使われたロシア語のテキストを教材として、文法を確認しながら精読する。簡単なロシア語で書かれたロシアの時事問題に関するテキストを日本語に翻訳することを通じて、文法力と語彙力を増強する。また、テキストを朗読し、発音の矯正、基礎文法の確認、読解に必要な新たな文法項目の拡充、現代社会に関係する語彙の導入なども扱う。本授業の履修を通して、辞書を使いながら、まとまった量の比較的平易なロシア語の文章を読むことができる。なお、本授業の履修前に、「ロシア語読解Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。	
	演習科目 アカデミックライティングⅠ	本演習では、大学初年次生が、大学教育レベルのアカデミック・スキルを学び、特に文書作成スキルを修得することを目的とする。演習では、担当教員が指定する文献を読解し、内容要約とレジュメを作成する作業、構成を意識した文章作成の課題に取り組む。本演習を通して受講生は、初歩的なアカデミック・スキルを身につけ、文献読解、内容要約、レジュメ作成、構成ある文章作成の方法を修得できる。	
	アカデミックライティングⅡ	本演習では、大学初年次生が、アカデミック・スキルを向上させ、特にレポート作成に必要なスキルを修得することを目的とする。演習では、文献探索法、剽窃を避ける引用方法、パラグラフ・ライティング、論証法、推敲について実践的な作業・課題に取り組む。本演習を通して受講生は、大学教育で求められる水準のレポート・論文を執筆する上で必要な文章作成方法を修得できる。	
専門科目群	国際関係コース科目 モンゴル文化社会論	本授業では、①モンゴル草原を含む中央ユーラシア草原に暮らしてきた人々を支えてきた牧畜という営みは、農耕と並んで人類が自然に依拠しつつ生存を維持してきた重要な生活文化であること、②牧畜は限りある草原資源が枯渇する前に牧地を替え、生活のための肉食を慎み母畜の乳を加工した製品を摂取する点で優れた持続可能な生業であること、③このような牧畜を可能にしてきた伝統的組織が現代的に変容しつつあること、以上の三点を理解する。それに加えて、④自然環境と生命を尊重しながら暮らすモンゴル人のもとで、自然と生命への畏敬の上に成り立つシャマニズムと、殺生を戒め乳製品を多用するチベット仏教が発達していることを通じて、自然環境と密接に結びついて生業の上に発達する宗教の在り方を学ぶ。本授業の履修を通して、モンゴルの文化、生活習慣、宗教等に関する知識を身につける。	
	国際関係コース科目 日中交流史	本授業では、「近代までの日中交流」、「日本の近代化と中国」、「中国の近代化と日本」、「日中国交回復の道のり」、「中国の改革开放と日本」などのテーマを中心に、日中間の長い交流の歴史を振り返る。交流史という広い視角から近代の日本と中国との関係を捉え、戦争や対立によって覆い隠されがちな多くの可能性と希望を見出し、それが私たちに与える示唆について考える。本授業の履修を通して、日中交流の歴史を修得し、日中関係の将来について自分の考えを持つことができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	朝鮮半島社会論	本授業では、朝鮮半島における有史以前から現代までの概略史とそこで培われてきた種々の文化の理解を通じて、朝鮮半島社会の構成とその形成、そして社会の変動について学ぶ。具体的には、社会の動態を意識した朝鮮半島史の推移、家族を基盤とした人的な社会関係、その中で形作られてきた独特な規範や慣習、行動様式、物の感じ方、価値観など、社会を把握する上で必要な初歩的事柄を取り扱う。本授業の履修を通して、朝鮮半島地域を一つの全体地域として理解するための基礎的知識を身に付ける。また、授業内容と自らの興味・関心に関わらせ、朝鮮半島地域の社会や文化の一現象を取り上げたレポートを作成することができる。なお、本授業の履修前に、「朝鮮半島政治論」を履修しておくこと。		
専 門 科 目 群	国 際 関 係 コ ー ス 科 目	ロシア社会論	本授業では、古代から現代にいたるロシア国家の変遷、それに伴う社会変動、その過程で現れた言説と文化の理解を通じて、ロシア社会を構成する思想と精神を学ぶ。具体的には、東スラヴ国家として始まったロシアが直面してきた諸問題、東洋と西洋の影響下で形成された独自の世界観と文明観、「ヨーロッパでもなく、アジアでもない」という「ユーラシア」という独自の自己意識が成立する過程とその意味など、ロシア社会を理解する上で必要な事項を扱う。本授業の履修を通して、ロシア＝ユーラシアを一つの地域として把握し、グローバル世界におけるこの地域の意義を理解するための基礎的知識を身に付ける。また、受講生は自身の関心に沿って、ロシアの社会、思想、文化に関するレポートを作成することができる。なお、本授業の履修前に、「歴史学概論」を履修しておくことが望ましい。	
		ロシア文化論	本授業では、ロシアの文化、とりわけ民衆の精神的な文化について学ぶ。ここで言う精神的な文化とは、ロシアがキリスト教を受容する前のスラブ民族の神話、その後ロシアの国民的な宗教となるロシア正教のことを指す。一つの国民国家が形成される過程では、その成員の間で共有される「物語」が重要な役割を果たす。それはロシアにおいても同様である。本授業の履修を通して、ロシアという国家の背景にある精神文化、「物語」を学び、修得する。なお、本授業の履修前に、「ロシア社会論」を履修しておくことが望ましい。	
		比較宗教学	本授業では、世界に現像する様々な宗教について学ぶ。そこでは、諸宗教を対比するアプローチが行われる。大別すると、その宗教の開祖が存在する創始宗教と、主に自然の擬人化から民衆の間で伝わってきた自然宗教となる。前者は仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教であり、後者は日本の神道等の民族宗教である。本授業の履修を通して、何故人間は様々な事象を崇拜し、自らの行動を律していくのか、理解することができる。なお、本授業の履修前に、「比較文化論」を履修しておくことが望ましい。	
		社会宗教論	本授業では、日本人の宗教を特徴づけている仏教、儒教、キリスト教についてそれぞれの基本的な概念を学修しながら、それが過去においてどのように社会的意味を持っていたのか、そしてどのような変遷を経て現代社会における日本人の宗教観が形成されたのかについて学ぶ。本授業の履修を通して、学生は日本人の宗教観の特徴を理解するとともに、広く東アジアの宗教観と比較しながら、日本社会と宗教の特徴的な関係について理解することができる。	
		北東アジア民族関係論	本授業では、北東アジア地域の大国であり、世界有数の多民族国家であるロシア（ソ連）と中国を中心に、民族間の関係を次の事柄を理解しながら学ぶ。①ロシア（ソ連）と中国が多民族国家になったのは、それぞれの帝国・王朝期に成し遂げた領土拡張とそれともなう異民族併呑（編入）過程があったこと、②ロシア（ソ連）と中国における民族の分布、③ソ連と中国における民族生成に大きな影響を与えたスターリンの民族論と言語論、④スターリンによる民族迫害政策、⑤中華人民共和国における民族生成作業（「民族識別工作」）の過程とそれが惹起した／している問題、⑥中国の文化大革命と民族迫害、⑦消滅の危機に瀕する少数民族言語に見る民族固有の文化の変容あるいは衰退。本授業の履修を通して、ロシア、中国を始めとした北東アジアの民族間の関係性を理解することができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	グローバル市民社会論	本授業では、経済・社会のグローバル化が進展する中、国内外で関心が高まっているグローバル市民社会の理論と実際、可能性と課題を学ぶ。具体的には、まずグローバル市民社会の基本概念・理論を俯瞰し、次に、グローバル市民社会の担い手である非国家の市民社会組織の実際を、国家・国家間国際機関(国連等)・企業等との関係性に留意しつつ、紹介・解説する。さらに、環境・人権・貧困等のグローバルな社会課題に対する市民社会組織及び市民個々の具体的な取組事例を把握・理解を深める。最後に、グローバル市民社会の可能性と課題を、その構成員である個人の可能性と課題に引き付けつつ、検討する。本授業の履修を通して、①グローバル市民社会を理解するための基礎的知識、②社会課題解決を考えるための応用的知識、③社会参加のスキル・方法に関する知識を身につけ、自分の言葉で説明することができる。		
専 門 科 目 群	国 際 関 係 コ ー ス 科 目	アジア環境論	本授業では、アジア諸国・地域の環境問題について理解を深めるとともに、アジア地域の越境型環境問題についても学ぶ。授業では、急激な経済発展を成し遂げたアジア地域で、深刻な環境破壊が大規模で進んでいることを具体的な事例で紹介しながら、アジアにおける経済的な相互依存の深化が環境問題における相互依存を生む状況について理解を深める。また、環境問題への対策として、各国・地域の政府の取り組みや政策に加えて、地方自治体や非政府組織、民間企業、草の根の市民活動などがネットワーク化しながら環境協力を進める必要性を指摘する。本授業の履修を通して、アジア地域の環境問題の実態について知識を深め、経済、環境、社会が相互に関連する状況を説明することができる。	
		アジアのイスラーム世界	本授業では、世界人口の5分の1を占めるムスリムが生きるイスラーム社会の歴史や文化について基礎知識を学び、ムスリムが暮らしを営む現代アジアの様々な地域を取り上げ、その社会や文化の多様な状況と歴史的变化のありようを概観する。授業では、7世紀のアラビア半島に起源を持つ歴史的・伝統的イスラーム世界における、宗教と政治の連動や、信仰と経済行為の結び付きなど、イスラームに関する基礎的な知識を学ぶ。その上で、現代アジア地域に広がる様々なイスラーム社会の具体的な事例を取り上げて、その社会や文化の状況を解説する。本授業の履修を通して、イスラーム世界の歴史、宗教、社会、文化について、偏見を排除した正確な知識を身につけ、個別のイスラーム社会の多様なあり方について理解することができる。	隔年
		南アジア研究	本授業では、南アジア地域・インド亜大陸の近代以降の歴史と、南アジア諸国における多民族・多文化社会の政治経済構造および社会変動を学ぶ。授業では、16世紀のヨーロッパ勢力による進出後、植民地化された南アジア地域が、第二次世界大戦後に非植民地化を進める際の独立・分離の状況や、冷戦の影響を受けながら国家建設や国民統合をどのように進めたのかを概観する。また、多民族・多文化社会を擁する南アジア地域のダイナミズムを把握するために、経済のグローバル化への対応に加え、エスニシティやアイデンティティをめぐる政治にも触れる。本授業の履修を通して、南アジア地域の近代以降の歴史に関する基礎的知識を身につけ、南アジア諸国の多民族・多文化社会における政治経済構造や社会変動について、説明することができる。	隔年
		環境経済論	本授業では、経済メカニズムのなかで環境問題が発生してきたメカニズムについて理解した上で、環境問題解決のために有効な経済政策について学ぶ。経済政策を実施するためには、通常貨幣価値がつけられていない自然環境や環境汚染の経済的価値を評価したり、経済政策の有効性を評価したりする必要がある。本授業の履修を通して、経済学をベースにした環境問題発生メカニズムを理解するとともに、環境の価値を経済的に評価する手法を学ぶことができる。なお、本授業の履修前に、「ミクロ経済学」を履修しておくことが望ましい。	

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	環境システム論	本授業では、地球全体を一つのシステムととらえ、人間活動による自然環境への影響と、環境負荷を浄化するために自然環境や生態系（自然資本）が果たしている役割について、自然科学的な知見から学ぶ。グローバル経済が進展する中、ものやサービスだけではなく、環境汚染物質も国境を越えて移動している。持続可能な社会の実現のためには、人間活動による影響を地球規模で理解すると共に、自然資本がもつ環境負荷の浄化能力とのバランスを評価したうえで、個人の消費行動を見直さなければならない。本講義の履修を通して、自然科学的な知見から、地球の自然資源の構成を理解し、持続可能な社会の実現に向けて、グローバルな視点から考察することができる。		
	政策過程論	本授業では、政策が立案・決定・実施・評価される過程を動的に解説する。そのなかで、政策の立案や決定に影響を及ぼす様々なアクターの存在や制度の分析などを通じて、政策が政治的な課題として明確化されたあと、実際に政治のプロセスのなかで、政策がどのように具体化され、実施に移されていくのか、についても解説する。つまり、政治の動態という大きな枠組みのなかで、政策が立案され、実際に実施されていく過程についても講義する。本授業の履修を通して、国や地方自治体において、課題が発見され、課題を解決する方途としての政策が立案・決定されるプロセス、さらに政策が実施・評価されるプロセスと方法について理解することができる。		
専門科目群	国際関係コース科目	NPO論	本授業では、「地域づくり」の重要なプレーヤーとして注目されているNPOについて、その歴史や具体的な活動内容、および組織運営のあり方について基礎から学ぶ。今やNPOは特に過疎地域の社会活動に欠かせない存在となっているが、高齢化や資金不足のために閉鎖に追い込まれている事例が増えている。本授業の履修を通して、学生はNPOに関する基礎知識を学ぶだけでなく、過疎地におけるNPOの社会的意義や組織運営に必要なノウハウ、活動資金の調達、またボランティア団体との違い等について、具体的な事例を参考にしながらNPOについて総合的に理解することができる。	
		憲法Ⅱ	本授業では、統治機構論を学ぶ。具体的には、立憲政体、君主制原理と国家法人説、憲法制定権力、議院内閣制、国会、選挙制度、政党、財政、政軍関係、条約、憲法の規範性と国法秩序、憲法改正、裁判所、違憲審査制、地方自治等の各論点を網羅する。本授業の履修を通して、統治機構上の各論点、統治機構内に権力分立制を組み込んだ立憲主義の内実と意義、ならびに日本国憲法が採用する立憲民主制の特質について理解を深めることができる。なお、本授業の履修前に、「憲法Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。	
		比較憲法	本授業では、比較憲法学を学ぶ。西欧と日本の東西対比を地理的分析軸として、また、古代、中世、近世、近代（市民革命期、近代立憲主義の確立期、近代立憲主義の現代的変容）の歴史的な分析軸をもう一つの柱として位置づけ、講義を進める。分析対象国としては、イギリス、アメリカ合衆国、フランス、ドイツ、スイスならびに日本を対象とする。本授業の履修を通して、各国の立憲主義の発展形態の多様性と、各国の社会構造の特質について理解を深めることができる。なお、本授業の履修前に、「憲法Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。	
		文化社会学	本授業では、文化社会学の基本的な理論や方法を解説するとともに、それらを用いた文化現象の分析事例を紹介することによって、文化という幅広く捉えどころのない対象を社会学の観点から学ぶ。社会学からの考察を通じて、特に、文化は私たちの行動や考え方に対してどのような影響を及ぼしているのか、また、私たちの社会において、文化はどのような役割や機能を果たしているのかについて探究する。本授業の履修を通して、社会的に文化を分析する能力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（国際関係学部 国際関係学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	福祉社会学	本授業では、「社会的に弱い人々をどのように支援していくのか」を考えるために、国際社会における福祉制度のなりたちや、日本の社会における福祉の諸問題を学ぶ。前半は、福祉国家論を通じて、国際社会の中で福祉が必要になった経緯や、福祉国家の基本的な構造を学び、後半は、日本の福祉の中でも、子どもへの福祉（少子化問題、子どもの貧困など）、障害者への福祉、高齢者への福祉の三つを取り上げ、日本の福祉政策の動向や社会的に弱い人々支援の実態を学ぶ。本授業の履修を通して、国際社会における福祉の役割や構造を理解し、自分の言葉で説明でき、現代の日本社会における福祉の問題状況を理解し、自分の言葉で説明できる。		
	中国政治社会論	本授業では、グローバル化する現代中国の国内の政治社会の変化、とくにその強靱性と脆弱性を備えた特徴を理解するための方法、それに基づく中国の政治社会に関する基礎的知識を学ぶ。授業では、歴史的アプローチ、地域研究、政治社会学などの方法論に基づいた中国の政治社会の考察の有効性と問題性をとりあげ、複雑に変化し続ける中国の政治社会を多角的に捉える必要性を理解する。また、これらの方法論を踏まえて、中国の近代化の多様なパターン、共産党の指導体制、本質的な矛盾を抱える社会主義市場経済体制、国家・社会関係、権威主義体制下における民主化問題、中央・地方関係、多民族国家の特徴、都市・農村関係、格差問題、腐敗問題、社会イノベーションなどのさまざまなイシューから中国の政治社会の特徴を考察する。本授業の履修を通して、中国の政治社会の基本的な問題について論理的に説明することができる。		
専 門 科	国 際 関 係 科	中国外交論	本授業では、東アジアの地域大国としてばかりでなく、グローバル・アクターとして国際社会において存在感を増し続ける中国の外交の展開とその特徴を理解するための方法、それに基づく中国外交に関する基礎的知識を学ぶ。授業では、歴史的アプローチ、地域研究、国際関係論などの方法論に基づいて、中国外交の展開を考察する必要性を理解する。また、これらの方法論を踏まえて、近代化過程における中国外交、主権国家としての国益の追求と対外政策決定過程のメカニズムを理解するとともに、中間地帯論、三つの世界論、独立自主、韜光養晦、パートナーシップ外交、責任ある大国論、平和的崛起、核心的利益、一帯一路などの毛沢東、鄧小平、胡錦濤、習近平の一連の指導者の下に展開された現代中国外交の特徴を考察する。本授業の履修を通して、受講生は、現代中国外交の基本的な問題について論理的に説明することができる。なお、本授業の履修前に、「アメリカ政治外交論」、「朝鮮半島外交論」を履修しておくことが望ましい。	
		朝鮮半島政治論	本授業では、現代における朝鮮半島（大韓民国〔韓国〕・朝鮮民主主義人民共和国〔朝鮮〕）の政治社会に関わる史的展開とその仕組みや構造について学ぶ。そこでは、韓国・朝鮮の内政が中心となるが、適宜朝鮮半島の近代の歩みやナショナリズム、朝鮮半島の統一問題、日本を中心とした北東アジア地域との関係についても扱う。本授業の履修を通して、韓国・朝鮮政治に関わる基礎的知識を身に付け、偏頗なくその政治動態を捉えることができる。また、本授業に関わり自らが関心を有する政治的諸問題を取り上げたレポートを作成することができる。	
		朝鮮半島外交論	本授業では、朝鮮半島をめぐる国際関係史の展開を学ぶ。第2次世界大戦終結に伴う朝鮮の独立はなぜ南北分断を伴うものであったのか、なぜ朝鮮戦争は起きたのか、なぜ南北の対峙併存は持続しているのかといった問題を、アメリカ、ソ連（ロシア）、中国、日本といった周辺大国との間での国際関係史の観点から考察を深める。本授業の履修を通して、今日の朝鮮半島情勢および東アジア国際関係を歴史的に洞察することのできる力を身につける。	



授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
目群 1 ス 目 目	日朝関係史	本授業では、日本と朝鮮（韓国含む：テーマに応じて古代～現代）との間に起きた出来事や関係する思想などを、日本／朝鮮双方の視点から学ぶ。本授業の履修を通して、受講生は各自が持っているであろう「朝鮮（韓国）観」や「日本観」を一旦括弧に入れ、歴史的に日本と朝鮮（韓国）はどのような関係を築いてきたのかについての知識を身につけ、現在の日韓（日朝）間に横たわる「嫌韓／反日」感情に囚われず、日韓（日朝）関係を理解するための知的「土台」を自らの中に築くことができる。なお、本授業の履修前に、「歴史学概論」を履修しておくことが望ましい。	
	ロシア政治経済論	本授業では、冷戦終焉とソ連崩壊から現代にいたるロシア国家の変容、それに伴う政治と経済の変動、その過程で行われた秩序の再構築、それらが現代のロシアに与えている影響の理解を通じて、ロシア政治経済の現状を学ぶ。具体的には、社会主義から資本主義への転換、一党独裁体制から自由・民主的体制への転換、国民統合イデオロギーの構築といった課題に直面した1990年代から今日にいたるまでのロシアの歩みを扱い、ロシア政治経済の理解の前提となる基本事項を教授する。本授業の履修を通して、グローバル世界におけるロシアの位置づけを理解するための基礎的知識を身に付ける。また、受講生は自身の関心に沿って、ロシアの政治、経済、社会に関するレポートを作成することができる。なお、本授業の履修前に、「ロシア社会論」と同程度の内容が身につけていること。	
	日露関係論	本授業では、日本とロシアの邂逅から今日にいたるまでの日露関係の歴史と現状を学ぶ。具体的には、江戸時代から現代までの日本とロシアの外交関係の歴史と現状とともに、思想・文学・芸術・学術における両国の交流と相互影響の歴史と現状を扱い、日露関係の多層性を理解するうえでの前提となる基本事項を教授する。本授業の履修を通して、日露関係の重要性を理解し、今後の展望について思索するための基礎的知識を身に付ける。また、受講生は自身の関心に沿って、ロシアの政治、経済、社会に関するレポートを作成することができる。なお、本授業の履修前に、「ロシア社会論」と同程度の内容が身につけていること。	
国 際	アジア比較政治	本授業では、政治的、経済的に国際社会を牽引するアジア諸国の政治発展の動向とその特徴を比較考察するための方法、それに基づくアジア諸国の政治発展の一般的、且つ個別的な特徴に関する基礎的知識を学ぶ。まず、授業では、歴史的アプローチ、比較政治学、地域研究などの方法論に基づいて、19世紀の「西洋の衝撃」を契機としてアジア諸国に共通した課題となった近代化と国民国家形成、またそれを参照軸とした比較考察、さらにはアジア諸国の個別的なとりくみを考察の視野に収める必要性を理解する。次に、これらの方法論と比較考察の参照軸を踏まえて、植民地化と民族独立、経済成長と民主化の波、権威主義体制の復権の一連の過程に着目し、北東アジア、東南アジアをはじめとするアジア地域の政治発展の動向を考察する。本授業の履修を通して、受講生は、アジア諸国の政治発展の基本的な問題について論理的に説明することができる。なお、本授業の履修前に、「北東アジア国際関係史」を履修しておくことが望ましい。	
	グローバル・ガバナンス論	本授業では、グローバル化が進む現代世界における地球規模の課題を統治・管理・運営する国際秩序がいかに形成されているか、国際政治学の発展的な諸理論を用いて分析・説明・理解することを目的とする。授業では、国際安全保障、国際貿易・金融、地球環境、人権、持続可能な開発、ジェンダーなどの問題領域を具体的事例として取り上げ、国家、国際機関、多国籍企業、国際的NGO、市民社会、個人がどのように利害関係を調整しながらグローバル・ガバナンスの形成に関与しているのかを検討する。本授業の履修を通して、国際社会が実践してきた地球規模の諸課題への対処法と課題について理解を深め、グローバル・ガバナンスの形成においてパワー、利益、規範が果たす役割と相互作用を理論的に説明・理解し、分析する手法を身につけることができる。なお、本授業の履修前に、「国際法」、「国際機構論」と同程度の内容が身につけていること。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	国際関係コース科目	国際法	本授業では、国際法の基本的な知識、すなわち国際法の基本構造（国際社会の法主体、国際社会の空間秩序）と、平和や人権といった現代国際社会の重要問題に対して国際法が有する仕組みについて学び、国際問題を法的に把握する見方とは如何なるものなのかを教授する。本授業の履修を通して、国際法の内容や発想を理解した上で、それらを用いて自ら現実の国際問題を分析・考察する力を身につける。
	国際機構論	本授業では、まず、国際機構の基礎的知識と歴史を学んだ後、普遍的国際機構に関して、安全保障分野で国際連合、通商分野でWTO、金融分野でIMF、開発援助分野で世界銀行、難民問題でUNHCRなどを取りあげて、それらの内部組織および活動について学ぶ。次いで、普遍的国際機構と比較しながら、地域的国際機構に関する先端事例として欧州連合（EU）の歴史、内部組織および活動について学ぶ。また、それを通じて、アジアの平和と安定のための地域統合の可能性について考える基礎的能力を身につける。本授業の履修を通して、グローバル化に伴い、国際社会における国家間の関係が緊密になるにつれて、どのような問題が発生し、いかなる対応が必要となるかについて、さまざまな国際機構の活動を学ぶことにより、日本国民の一人として国際社会にどのように関わることができるのかについて、自ら考えることができる。	
	ヨーロッパ統合論	本授業では、ヨーロッパ統合の歴史的展開と現代的課題を、政治外交史・国際関係学のアプローチから学ぶ。授業では、二度の世界大戦の戦禍を経たヨーロッパにおいて、冷戦期国際政治の中で地域統合がどのように進展していったのか、欧州連合（EU）の前身であるヨーロッパ共同体（EC）の成立過程、参加国や領域の拡大、制度の発展を説明する。さらに、冷戦後に加速した欧州統合プロセスとして、市場統合、域内人口の自由移動、東欧への拡大、共通外交・安全保障政策、司法・内務分野協力、単一通貨ユーロ導入など、EUの制度的発展を紹介するとともに、ユーロ危機、難民流入、英国のEU脱退問題など欧州統合が抱える現代的課題についても触れる。本授業の履修を通して、欧州統合プロセスの知識を得ながら、その歴史的変遷を政治外交史・国際関係学のアプローチから分析的に理解する視角を養い、身につけることができる。	
国際関係コース科目	国際開発論	本授業では、開発経済学の諸理論と実際の国際開発政策の距離をはかりつつ、国際開発における主要論点、分析枠組、課題等を概説する。また、開発のミクロ経済学についても講義を展開し、途上国と我が国の開発における諸課題について比較の視座から分析する。具体的には、①開発経済学の主要潮流（初期開発経済学から新古典派批判のパラダイムの展開）、②経済成長と構造変化（人口転換論、二重構造論、労働移動論、発展途上国の労働市場）③経済成長論（近代経済成長の諸理論、資本蓄積と技術進歩の源泉、内生的経済成長論）、④開発のミクロ経済学（貧困発生メカニズムと農業発展の理論）、⑤地域開発と経済発展（農業、教育及び国際貿易の役割）について議論する。本授業の履修を通して、開発経済学の諸理論を修得し、開発経済学についての理解を深め、学生が途上国や新興国の経済発展過程を理論的・実証的に説明でき、また、国際開発の諸政策に関して、興味深い問題を提案することができる。なお、本授業の履修前に「ミクロ経済学」を履修しておくことが望ましい。	
	政治哲学	本授業では、20世紀に活躍した政治哲学者・政治理論家の言説を中心に学ぶ。具体的には、第一次世界大戦から全体主義の台頭、第二次世界大戦、原爆投下といった歴史を背景として、人間の生に深く関わる政治の実態について講義し、20世紀に活躍した政治哲学者・政治理論家の論述から、20世紀の政治の背後にある論理とそれを乗り越える方途について講義する。本授業の履修を通して、現代の政治哲学が抱えている課題と政治哲学が果たすべき役割について、俯瞰的に理解することができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	ゲーム理論	本授業では、ゲーム理論の基礎理論を学び、そしてビジネスや政治、日常生活の行動における具体的な事例を採り上げながらゲーム理論の活用方法を学修する。ゲームとは何か、ナッシュ均衡などの均衡概念、混合戦略、しつぺ返し戦略、囚人のジレンマゲーム、繰り返しゲーム、チキンゲームなど、ゲーム理論の基本的な概念を数式の使用を必要最小限にとどめながら解説する。本授業の履修を通して、ゲーム理論の基礎知識を理解でき、また、自分が関心を持つ問題や事象をゲームとして表現することができる。なお、本授業の履修前に、「ミクロ経済学」を履修しておくこと。	
	第二言語習得論	本授業では、人が第二言語（外国語）を習得するメカニズムについて主として第二言語としての日本語教育を例に学ぶ。本授業の履修を通して、学修者は第二言語習得理論とは何かという概略を知り、第二言語習得のメカニズムや習得の個人差、学習・教育環境が第二言語習得に与える影響などを理解することができる。さらに、日本社会で増加しつつある外国人労働者や外国人児童生徒の現状を知り、彼らを取り巻く課題について言語習得理論の観点から考察することができる。	
	国際コミュニケーション科目 言語学・コミュニケーション学	コーパス言語学	本授業では、コーパス言語学を学ぶ意義・定義・歴史・種類・検索技術について基本概念を学ぶ。本授業ではGoogleをコーパスとして実用的な英語検索方法を学ぶ。本授業の履修を通して、英語表現検索、英語の語用法の妥当性、信頼性のある情報収集方法、様々なファイル情報収集技術を修得する。また、1億語のコーパスBNC-webを用いた単語検索・コロケーション検索・コンコーダンス検索等の検索技術を身につけ、コーパスを英語学修のツールとして使いこなす特徴的な英語の「ことば」のふるまいについての観察力・理解を深めることができる。
	対照言語学	本授業では、対照言語学の基本的な概念や方法について理解した上で、日本語と中国語について、音声・音韻、形態、統語、語用、語彙、表記などの分野における様々な現象を取り上げて比較対照し、日本語と中国語の類似点・相違点を理解し、そこから日本語と中国語の特性を明らかにすると共に、言語の普遍的なものを導き出すことを試みる。また、外部講師をゲストスピーカーとして招聘し、日本語と他の言語との対照研究の実例を示す。本授業の履修を通して、日本語と中国語以外の対照研究について理解し、対照言語学の方法を用いて、自ら取り上げた日本語と中国語の言語現象を比較対照し、分析を行うことができるようになる。また、対照言語学が二言語の類似点・相違点を明らかにすることで、外国語教育における問題点を解く鍵を提供していることを理解する。	
	言語文化研究（英語）	本授業では、1年次、2年次で学んだ言語学や英文法の学修成果を踏まえ、英語学や英文法の知識を援用しながら実際の英語運用力の基盤となる語の使い方、語法について学ぶ。各種の英語辞書の記述を吟味しながら、英語の語法の調べ方や日本人英語学修者が間違えやすい英語の語法について考えてゆく。また、本授業では英語の語法について自ら調べ、考え、解答を探る力を身につけるために、コンピュータを使ったコーパス言語学の手法を援用する。本授業の履修を通して、英語のコミュニケーション能力の向上に繋がる各種英語語法の知識や語法研究の方法の基礎を身につける。	
	言語文化研究（中国語）	本授業では、中国語の音声・音韻、文法、語彙、表記等の各分野について学ぶと共に、中国語の歴史、方言について学ぶ。音声・音韻については、具体的な音声と抽象的な音韻の構造について理解し、また声調やイントネーションの特性について学ぶ。文法については、語構成や統語的な構造を理解し、いくつかの具体的な問題点について学ぶ。語彙については、様々な単語により構成される語彙の構造を学ぶ。表記については、中国語の書き言葉及びそこで使用される漢字の特性について理解する。また、中国語がどのように発展してきたのか、その歴史を学び、中国語の地域的あるいは社会的変異体としての方言を学んでいく。さらに、言語と社会、言語と文化の関連性について考えていく。本授業の履修を通して、中国文化を支える重要な要素として中国語を捉え、中国語とはどのような言語であるかを理解することができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 国際コミュニケーション科目 言語学・コミュニケーション学	言語文化研究（韓国語）	本授業では、1年次、2年次で学んだ韓国語の学修成果を踏まえ、韓国語にまつわる理論的な知識を韓国語学的な観点から考察する。特に言語学における韓国語学の位置付けを始め、韓国語の語学的な性質を形態論、統合論、意味論、語用論など文法的な観点から分析する。また韓国語の歴史を通時的かつ共時的な観点から考察する。本授業の履修を通して、総合的に韓国語における言語と文化の相関関係を理解し、韓国語に対する学問的な視野をより深めることができる。	
	言語文化研究（ロシア語）	本授業では、1年次、2年次で学んだロシア語の学修成果を踏まえ、ロシア語がどのように発展したのか、その歴史を学び、ロシア語の地域的あるいは社会的変異体としての方言を学んでいく。正教を国境とした、民族に共通の公用語であった教会スラヴ語とのつながり、ビザンツ教会文化の伝播者としてのロシア語について学ぶ。ロシア最古の都市であるノヴゴロド市で発掘された白樺文書をロシア語の文献として取り上げる。旧帝政ロシア・旧ソ連の共通語の歴史、多民族国家ロシアにおけるロシア語の役割、国際語としてのロシア語について学ぶ。本授業の履修を通して、総合的にロシア語における言語と文化の相関関係を理解し、ロシア語に対する学問的な視野をより深めることができる。	
	デジタルコミュニケーション論	本授業では、コンピュータを介したコミュニケーションを理解することを目的とする。学生は同期的コミュニケーションと非同期的コミュニケーションの違いを理解し、様々な場面においてどのメディアを用いることが適切かを学ぶ。ビデオ、音声、文字、ビジュアル等のコミュニケーションの違いについて理解を深める。本授業の履修を通して、多様なメディアの利点と欠点を理解し、コミュニケーションの目的と受け手に応じた適切なメディアを利用することができる。	
	映像コミュニケーション論	本授業では、「映像」及び「動画情報」の原点である「映画」を切り口に、映像を通じた文化的コミュニケーションについて学ぶ。授業では、三つの大きな柱に沿って解説・展開する。まず「映画誕生の人類の意義について」、次に「映画発達史における“ハード・システムとソフト(作品)との相関関係”について」、最後に「作品製作における社会的・時代的影響の反映について」である。それぞれのテーマに沿って時系列的に作品を紹介しつつ、その複合的な作品の展開を受講生と共有し、作る側と鑑賞する側との思考共有を図る。本授業の履修を通して、「映像コミュニケーション論」の基本的概念の理解と、作り手と受け手の双方の思考の理解を促し、映像メディアとの適切な関わり方を身につける。	
	映像表現論	本授業では、現代社会において最も重要なメディアである映画、テレビ、インターネットなどの映像コンテンツについて、その制作方法や人々の生活や考え方に与える影響について学ぶ。本授業の履修を通して、学生は最先端技術の表現方法だけでなく、スマートフォンでも制作可能な映像コンテンツの制作方法を紹介し、表現手法としての映像制作法とメディアリテラシーについて理解することができる。	
	ローカル・ジャーナリズム論	本授業では、ソーシャルメディアの発達により「誰もがジャーナリスト」時代が到来している現代において、地域に暮らしながら地域を発信することにどのような意味があり、何を大切にすべきなのかについて、「ローカル・ジャーナリズム」という切り口から学んでいく。本授業の履修を通して、学生はローカル・ジャーナリズムの重要性とその手法、さらにその使命や社会的ルール（倫理）について理解することができる。	
	文学批評論	本授業では、文学と文化研究を導入し、文芸理論を定義することから始める。英語で書かれた短編と詩を取り上げ、その中で用いられている技法を分析する。また、読者がどのように文学を解釈するかという問題についての主要な理論を概観する。平易な英語で書かれた短い小説を読み、それらの技法と理論を用いて作品を分析し、グループディスカッションを行う。本授業の履修を通して、文学批評論の基本概念を理解し、自分なりの考えで文学批評を行うことができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際関係学部 国際関係学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 国際コミュニケーション科目	言語学・コミュニケーション学 コミュニケーション分析法	本授業では、コミュニケーションの研究に用いられる量的および質的分析方法について学ぶ。具体的には、実験、サーベイ、内容分析、ディスコース分析、インタビュー、フォーカスグループ等の分析方法を比較検討し、様々な分析方法に内在する長所と短所、適切なアプローチ、倫理的な問題を事例を用いて解説する。本授業の履修を通して、コミュニケーションに対する自身の問題関心を明らかにするにはどのような方法を取れば良いかを理解することができる。	
	対人コミュニケーション論	本授業では、対人コミュニケーションの様々な側面を深く理解することにより、人間関係を円滑にするためのコミュニケーションの技術を学ぶ。具体的には、対人でのコミュニケーションに影響を与える文脈、場面、文化の理解、および、傾聴の仕方、非言語シグナルの意味を解釈する技術、コミュニケーションの重要性について理解を深める。本授業の履修を通して、人間関係、社会およびビジネスの場面において、他者とよりよいコミュニケーションができる。	
	グローバルディスカッション	本授業では、海外の協定校の学生とテレビ会議システムやインターネットのチャット機能を使い、お互いの国の文化、大学生活、家族、伝統行事、ステレオタイプなどの各テーマについて、英語でディスカッションを行う。授業では、海外の大学生とパートナーをつくり、パートナーとは授業外でも、EメールやSNSを用いて連絡を取り合い、プレゼンテーション資料などの課題に取り組む。本授業の履修を通して、日本文化及びパートナーの国の文化を理解し、相対的な文化的価値を理解することができる。	
	グローバル・コラボレーション	本授業では、海外の協定校の学生と共に、21世紀のリーダーにふさわしい態度と技術を養成するために、リーダーシップのあり方について学ぶ。具体的には、テレビ会議システムやインターネットのチャット機能を使い、海外の学生とグループワークを行う。グループワークでは、日本のリーダーシップとグローバルなリーダーシップについて、意見交換を行う。学生は最低1回はグループのリーダー役を経験し、リーダーのタスクを遂行し、役割を考察し、それについてエッセイを作成する。本授業の履修を通して、変化の激しい国際社会において創造的なリーダーとなるために必要な多様性を生かす姿勢、オープンな思考態度、効果的なコミュニケーション能力を身につける。	
	英語 ビジネス英語 I	本授業では、ビジネス関連語彙修得、ビジネス英語関連文書の速読直解の力を養成することを目標とする。本講義の履修を通して、ICTを活用した英語辞書、類義語辞書、英単語学修ツールの活用方法を身につけ幅広い語彙を身につけることができる。ビジネス英語の多読を活用した発音訓練、アクティブラーニングによりビジネス英語に慣れ、様々なビジネス文書の直読直解ができる。TOEICテストの各パート問題についての講義をもとに、協同学修を通じた訓練を実施し、TOEICテスト500点～550点を到達目標とする。なお、本授業の履修前に「ビジネス英語入門Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。	
英	ビジネス英語Ⅱ	本授業では、ビジネス英語を学ぶ上で必要となる英語スキルをアクティブラーニングを取り入れたグループ学習により学ぶ。本授業の履修を通して、段階的にライティングの構成・論理展開について修得することができる。また、TOEICテスト問題のパート7に焦点を当て、講義とともに協同学修を通して様々なビジネス文書に対応できる読解力を養い、TOEICテスト550点～600点を到達目標とする。なお、本授業の履修前に「ビジネス英語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。	
	プレゼンテーション	本授業では、ビジネスやアカデミックな場において、英語での口頭発表を効果的に行う方法を学ぶ。テーマに合わせたデータの収集、ストーリーの構成方法、ビジュアル資料の提示方法、声の大きさ、速さ、ポーズ、姿勢、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーション、質疑応答の方法、パワーポイントを使ったスライドの作り方を学び、実践する。本授業の履修を通して、聴衆の心に響くプレゼンテーションの技法を身につけ、大勢の聴衆の前でも堂々と英語で話すことができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	国際コミュニケーション科目	話	
		ディベート	本授業では、ディベート技術の修得を通じて、高度な英語のコミュニケーション能力を身につける。ディベートとは、推定議題、価値議題、政策議題に対して、肯定側と否定側に分かれて、ルールに従って意見を主張し、聴衆を説得する討論ゲームである。観客の賛同を得るために、情報を収集し、統計資料や事例等の証拠資料を用いて主張し、批判的に相手の証拠資料を検討し反駁を行う。本授業の履修を通して、分析的に考える力、感情的にならずに論理的に主張する力、聞いている人が理解しやすい論理の組み立て方を身につける。
		リサーチペーパー・ライティング	本授業では、英語による研究論文の書き方を学ぶ。アブストラクトから引用文献に至るアカデミックな論文の各部分と流れについて具体例を用いて学ぶ。アカデミックなテーマについてリサーチクエスチョンを設定し、研究計画を立て、データを収集したのち、結論に至るまでの内容を APAのスタイルに則って記述し、2000ワード以上の長いエッセイを完成させる。本授業の履修を通して、英語による卒業論文作成の基礎を身につける。なお、本授業の履修前に「エッセイライティングⅡ」を履修しておくことが望ましい。
	北東アジア言語	実践中国語Ⅰ	本授業では、文化や社会に関する一般的な中国語の知的な文章をテキストとして用い、その内容を理解し、自然な日本語に翻訳するとともに、その内容について文献やインターネットを用いて調査し、様々な角度から分析した上で、その内容について中国語で説明できるように学ぶ。また、他の学生の中国語による説明を聞き取り、それを評価できるように学ぶ。本授業の履修を通して、「聞く、話す、読む、書く」能力を総合的に高め、高度な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。また、中国の社会や文化に関する理解を更に深めることができる。なお、本授業の履修前に「中国語読解Ⅰ」、「中国語読解Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。
		実践中国語Ⅱ	本授業では、文化や社会に関する一般的な中国語の文章をテキストとして用い、その内容を理解し、自然な日本語に翻訳するとともに、その内容について文献やインターネットを用いて調査し、様々な角度から分析した上で、その内容について中国語で説明でき、更にその問題について自分の見解を中国語で表明できるように学ぶ。また、他の学生の意見を聴いて、その意見を評価し、中国語を用いて議論できるように学ぶ。本授業の履修を通して、「聞く、話す、読む、書く」能力を総合的に高め、高度な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。また、中国の社会や文化に関する理解を更に深めることができる。なお、本授業の履修前に「実践中国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。
		実践韓国語Ⅰ	本授業では、中級後半レベルの高度な文法事項、文章力、読解力を身に付けていく。韓国に関するさまざまな話題について実際に韓国語で話す訓練をする。口頭発表を行い、文章の表現力や読解力を高め、グループワークで意見を出し合って他の受講生の関心分野に対する理解も深める。目上の相手に対して、礼節をわきまえた適切な表現が使える、公式な場面と非公式な場面を区別して、表現の選択が可能になる。本授業の履修を通して、韓国語運用能力を高めることができ、また、韓国の社会や文化への理解をさらに深めることができる。なお、本授業の履修前に「韓国語読解Ⅰ」、「韓国語読解Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。
国際コミュニケーション	北東アジア言語	実践韓国語Ⅱ	本授業では、中級後半レベルの韓国語能力を身につけることを目的とし、具体的には、ビジネス表現、社会行事、専門分野等に関わる語彙や表現に適応できるよう学ぶ。韓国語で自分の意見や感情、物の特徴などを自然に伝え、自分の経験したことなどを聞き手にスムーズに伝えることができるよう、話法などの訓練を行う。本授業の履修を通して、高度な韓国語によるコミュニケーション能力を身につけ、また、韓国の社会や文化への理解を更に深めることができる。なお、本授業の履修前に「実践韓国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。
		実践ロシア語Ⅰ	本授業では、日常生活だけでなく社会生活に必要なロシア語や一般的な事柄について、聞いて話すことを目的とする。教科書を反復学習するとともに、実際の会話場面を想定したロールプレイングを交えつつ、実践的なロシア語を学ぶ。同時に、ロシアの社会や文化に関する理解を更に深める。本授業の履修を通して、中級前半レベルのロシア語能力を身につけることができる。なお、本授業の履修前に「ロシア語読解Ⅰ」、「ロシア語読解Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	科目	実践ロシア語Ⅱ	本授業では、社会生活に必要なロシア語や一般的な事柄、および現代社会の問題について、聞いて話すことを目的とする。ロシア語の月刊誌「ヴォクログ・スヴェタ」と「ロージナ」の記事、ロシアの動画サイトとネットのニュースを教材とし、すでに修得した語彙や表現を用いて「聞く、話す、読む、書く」活動を行う。同時に、ロシアの社会や文化に関する理解を更に深める。本授業の履修を通して、中級前半レベルのロシア語能力を身につけることができる。なお、本授業の履修前に「実践ロシア語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。
	演習科目	基礎演習ⅠA	本演習（2年次前期）では、国際関係コースの学生を対象に、国際関係、政治、経済、社会、歴史、思想等の学術的入門レベルの英語文献を読み、内容に関する自らの論争的な見解を他者に伝え議論することを目的とする。演習では、担当教員が指定する英語文献を読解し、内容理解を確認しつつ議論を行う。本演習の履修を通して、英語文献の段落構成を理解し、文献全体の要点および詳細な情報を読み取るスキルを身につけ、内容理解に必要な論理的表現、語彙、文法を修得し、内容に即した論争的な論点について議論する能力を獲得できる。
		基礎演習ⅠB	本演習（2年次前期）では、国際コミュニケーションコースの学生を対象に、日本文化に関する英語文献を読み、異文化を持つ他者に英語で日本の文化を伝える上で必要となる知識と理論を身につけることを目的とする。お盆やお正月などの日本の伝統行事、アニメや漫画などのポップカルチャー、日本の教育事情などに関する英語文献を用いて、外国人に日本文化を説明するときにはどのように表現したら良いかを議論しながら、日本人の持つ世界観、人間観、価値観などを探る。本演習の履修を通して、英語の文法や表現と比較しながら、背景となる日本文化を再認識することができ、国際社会における日本の役割を考える上での基礎を身につける。
		基礎演習ⅡA	本演習（2年次後期）では、国際関係コースの学生を対象に、各自の選択する第二外国語（中国・韓国・ロシア語）の文献講読を通じて、それぞれの言語圏の政治、経済、社会、歴史、文化、思想等の理解を深めることを目的とする。演習では、担当教員が指定する第二外国語文献を読解し、内容理解を確認する。本演習の履修を通して、第二外国語文献の読解能力を向上させ、それぞれの言語圏における国際関係や地域研究の基礎知識を身につける。
		基礎演習ⅡB	本演習（2年次後期）では、国際コミュニケーションコースの学生を対象に、アジアをはじめとする諸外国の人々の暮らしや文化、日本との関係に関する英語文献を読み、諸外国の社会、歴史、文化、思想等の理解を深めることを目的とする。演習では、諸外国の文化の視点から、紛争、環境問題、貧困や女性問題などのグローバルな課題について英語でサマリーを書き、発表や質疑応答を行う。本演習の履修を通して、英語によるディスカッション能力を高めると同時に、多面的に問題を議論することにより、多様な価値観を持つ人々と協力する上での基礎知識を身につける。
	専門演習Ⅰ	本演習（3年次前期）では、学生自らが関心を持つ専門分野の基礎的な事項（知識、概念、理論、研究方法、資料読解方法など）を学ぶ。本演習では、学生による報告・プレゼンテーションを中心にすえ、専門的文献・資料の読解方法、議論の方法、調査の方法など、専門的研究を進める上で必要となる学術的な基礎力を修得することを目指す。本演習の履修を通して、4年次の卒業研究執筆に必要とされる能力のうち、専門書の議論を吸収・整理し、的確に論点を析出して他のゼミ生と議論を展開させ、論理的な思考を口頭および文章で表現できる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際関係学部 国際関係学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	演習科目	専門演習Ⅱ	本演習（3年次後期）では、専門分野における主要な学術的論点を理解するとともに、それらを自らが関心を持つ研究テーマに発展させ、卒業研究計画を作成することを学ぶ。本演習では、学生が主体的に報告・プレゼンテーションを行い、より高度な専門分野の学術的論点と自らの問題意識とを関連づけて報告し、ゼミ生との議論を通じて分析を深める。本演習の履修を通して、教員の指導により、研究課題の設定方法、先行研究の収集と整理、議論の展開の仕方、リサーチの方法を身につける。
		専門演習Ⅲ	本演習（4年次前期）では、卒業研究の作成に向けて、学生各自による卒業研究進捗状況の報告・プレゼンテーションを行うことを中心に進める。本演習の履修を通して、指導教員から執筆指導を受けながら、先行研究を踏まえた研究課題の検証方法、仮説や分析枠組みの構築、調査方法などを検討し、主体的に研究を進めることができる。
		専門演習Ⅳ	本演習（4年次後期）では、卒業研究を完成させるため、学生各自の卒業研究の中間報告を含めてプレゼンテーションを中心に行う。本演習では、教員による執筆指導、ゼミ生同士のピア・レビューを通じて、卒業研究の完成度を高めるためにドラフトの加筆修正を繰り返す。本演習の履修を通して、学生各自の卒業研究は、明確な研究目的、的確な先行研究の整理、研究課題の学術的意義、精緻な理論的検討、詳細な事例研究や現地調査の報告、実証的な分析、説得力ある結論と政策的含意の提示を含む水準に到達することができる。
		卒業研究	本科目では、4年間の学びの成果として卒業研究を作成する。個々の学生は、専門演習の指導教員の指導を受けて、各自が選択した研究テーマについて先行研究を渉猟して研究課題を抽出する。本科目の履修を通して、学術的な探求を行う価値のある問いを立て、その問いを解明するために必要な文献および資料を収集・整理し、必要不可欠な現地調査を行い、自らの見解を論証して結論を導き、卒業研究を完成させることができる。なお、本科目は成果物としての単位授与を行う。